



《 苛 怨 樹 》

... 夜ごとの悪夢 ...

リステラス星圏史略
sin 資料ファイル
7-9-X

「第5回アイリスNEO
ファンタジー大賞」
(2019年9月19日)
〔 投稿済み 〕

霧 樹 里 守
(きりぎ ・ りす)

目次

【 移転 の お知らせ 】	1
(第2稿=投稿版) ⇒ (アイリスNEO5)	
(第2稿=投稿版) ⇒ (アイリスNEO5)	5
(あらすじ)	6
『 苛怨樹 』	7
第一夜 「 灰色姫の物語 」	8
第二夜 「 殺閻の物語 」	19
第三夜 「 遺された エルの物語 」	28
第四夜 「見守りし者の物語 」	34
第五夜 「 放浪戦士の物語」	45
第六夜 「 書き換える者の物語」	50
第七夜 「 苛烈怨呪の物語」	62
【 朝 】	65
(第1稿) (ほぼぶっつけ草稿)	
(第1稿) (ほぼぶっつけ草稿)	71
(2019年08月13日) 第一夜 「 灰色姫の物語 」 (第一稿) (どうか草稿?)	72
(2019年08月14日) 『 苛怨呪の物語』(仮題) 第二夜 「 殺閻の物語 」 (第一稿)	82
(2019年08月17日) 第二夜 「 殺閻の物語 」 (第一稿)	90
(2019年08月17日) 第三夜 「 遺された者の物語 」(第一稿)	95
(2019年09月08日) 第四夜 「 」 (第一稿)	104
第五夜。 「 歌者と戦士の物語」。 (仮題)	113
(2019年09月15日) 第六夜 「 転生課題の物語」 (仮題)	118
(2019年09月15日) (続き)	123
(2019年09月16日) (続きの続き。)	127
(完全に草稿)	
(完全に草稿)	135
(2019年08月12日) (草稿)	136
「オリザドダレイド。(苛怨樹)」	141

☆ 「さあ、長い永い、一瞬の旅の始まりだ！」	142
(いちおう設定資料とか。)	
(いちおう設定資料とか。)	145
【★ぶっつけキャラ設定ッ!】 (2019年8月3日時点)(★名前のみ!)	146
◆登場人物◆	150
(2019年8月12日) 『ざっくりプロット』策定!	151
(2019年08月12日) (ざっくり 小ネタまとめ)	154
(2019年8月15日) 「サキは私の転生未来(ハイアーセルフ)じゃなかつた!」わけだから...	158
(2019年08月31日) 清瀬律子⇄エイリスの航跡を追って、生身のままた時間遡行した「狼さん」。	162
(参考「旧設定」資料ファイル)	165
(借景資料集)	
(借景資料集)	169
(2019年09月08日) その「人工〇〇」が吸収され脳に達すると睡眠障害を引き起こす。	170
(執筆関連日記等)	
(執筆関連日記等)	177
(2019年07月30日) 今朝になって「次を書く原稿」が決まった...! と、目が覚めました♪	178
(2019年08月02日) さて!	180
(2019年08月03日) (DNA = 遺伝子 = ジーン (gene))。	188
(登録@2019年8月11日)	191
(2019年08月12日) 復帰第一戦!...	192
(2019年09月05日) そんなこったろうと思ったよ!	195
(2019年09月06日)	199
(2019年09月14日)	202
(2019年09月15日) 0件、 0pt、 0人。	205
(2019年9月19日) (承前)	207
(2019年9月19日) 【アイリス大賞5】応募用作品です。	209
奥付	
(前書き/後書き)	213
奥付	215

【 移転 の お知らせ 】

- ★
- ★ 超？ かなり大幅～に！ 加筆&改稿した2023年版
- ★
- ★ こちらにございます。
- ★
- ★ 『 女神たちの 転生 課題 』内
- ★
- ★ <https://novelpia.jp/novel/3778>
- ★
- ★

=====

『 苛怨樹』 (投稿完了！) 2019年09月21日(土) 13:53
<https://ncode.syosetu.com/n4805ft/> (※ 最終バージョン)

=====

「第5回アイリスNEOファンタジー大賞」応募用。

ぶっつけ原稿。てか「草稿」のみ。

(※ 「パブー閉店⇔続行」騒ぎで右往左往して... 時間切れ！)

=====

(第2稿=投稿版) ⇒ (アイリスNEO5)

(第2稿=投稿版) ⇒ (アイリスNEO5)

(第2稿=投稿版) ⇒ (アイリスNEO5)

最終版⇒ <https://ncode.syosetu.com/n4805ft/>

(あらすじ)

宇宙。

深宇宙。

外銀河探査艦内。

閉ざされた世界において。

夜ごと悪夢に魘される奇現象。

運航業務に支障をきたす級の災厄。

未来よりの使者と名乗る者が乱入する。

謎の解と原因退治という命題が与えられ。

そして。

『 苛怨樹 』

『 苛怨樹 』

... 夜ごとの悪夢 ...

第一夜 「 灰色姫の物語 」

第一夜「 灰色姫の物語 」



夢を視ていた。

深い深い、魂の奥のおくの底のそこの、澱のしたの淀みのさらにおくの

深い深い、ところの、いやな...

記憶の夢だ。

いつもの、夢だ...

いや、そうだったのだろうか？

一瞬だけ、いまの理性がちらりと目覚めておもう。

自分は、夢などいままで、視たことがあったのだろうか？

夢だ...

灰色、の。



その惑星（ほし）の空は長らく一面の灰色であった。

それゆえに灰色は尊い色であった。

神聖なる巫女らのまとう衣もまた一面の灰色と定められ、

灰色の髪をもち生まれついた赤子らは

すべて神殿へと納められるしきたりであった。

サエラは貧しい家に生まれた。

貧しいみじめな辺境の寒村の、

風が吹けば屋根が飛ぶような、

貧しく賤しい小屋かけの、

村はずれの海べりで、

やはり貧しくて貧しくて定まった妻を得ることも叶わぬ

貧しい日雇いの魚獲りたちの

そのまた下働きを相手に、

春をひさぐ醜く瘠せたはしための腹から生まれた、

父無しの子であった。

しかしサエラは美しい、それはそれは美しい、花のかんばせと、

それ以上に尊貴とされる、灰色の長い長い、渦巻く髪をもって生まれた。

生まれながらに気高い心根と、

誰に教わったわけでもない、

真の叡智を持っていた。

その噂は辺境を超え、街邑を超え、遠く遠く、小路国の王宮にまで届いた。

王は評判を聴きたいそう喜び、幼い少女の成人の年である八歳の誕生月に、

はるばる王宮より、迎えをつかわした。

貧しく醜く年老いた実の母に、否やはなかった。

喜びと名誉に哭きむせび、下賜された多くの宝物と引き換えに、

慶んで、実の娘をさしだした。

サエラに断る自由はなかった。

ただ、幼馴染の友やら親戚やらの幾たりかを、

供に連れ、王宮での士官の道をと、

控えめに望んだだけだった。

土地の司祭が儀式を主宰し、

《聖なる恩寵（サワラソウエン）》の巫女名を賜った。



サワラソウエンは美しかった。

王宮へ至る輿入れの行列を

沿道の人々は、みな喜悅して涙しながら、

ふし拝み、祝福を願った。

女神と呼ばれ灰色姫と称えられ、

少女は王宮へと至った。

美しい巫女姫をひとめ観るなり、

年老いた王は狂喜して、わが閨へと望んだ。

長らく空位であった正王妃の地位を与えようぞと。

王の唯一の血縁にして後継姫たる

巫女長アミルディソレルダス姫が、

鋭くそれを拒んだ。

すべての灰色の髪のはらは

神殿に、収めるが王の務めと。

老王は嘆き哀しみ秘かに犯し穢そうと試みたが、

毒牙は巫女長によってからくも防がれた。

灰色姫は王宮奥深い正神殿に納められ、心静かに、

日々に夜々に、その先視と神語るちからを磨いた。

穏やかな、日々であった。

ただ、故郷より伴いし幼馴染の、

兄とも慕い育った少年ソルダスが、

衛視として王宮によく仕え、手柄をとりたてられて、

衛視長の娘を娶ったと。

風の報せを耳にして、密かに涙を流したほかは。



歳月が流れ、老王は死病の床に伏した。

後継王婿として、隣国の王アジャルディーンが名乗りをあげた。

後継巫女姫を妃にもらい受けよう。

ふたつの王国をひとつにまとめ、

共に栄えるよう、自分が盛り立てようと。

巫女長姫の退位還俗の暁には、跡目は史上稀なる神通力の、

仙才優れたる灰色姫よと、

民のすべては悦び望んだ。

しかしアミルディソレルダス姫は

サワラソウエンに命じた。

私の代わりに巫女職を返上し、

老王の養女となり、アジャルディーーンの子を産めと。

サワラソウエンに断る自由はなかった。

秘かに嗚咽を噛み殺しながら、

養女の儀式で王に穢され、

花嫁の新床にて、

王婿に犯された。

泣きながら孕み、

泣きながら子を産んだ。

生まれた赤子は娘であった。

王家の生まれの灰色の娘であった。

アジャルディーーンは舌打ちした。

本国にすでに愛妃と愛児はあった。

あとめ争いの面倒などごめんだと、

赤子は奪い去られて乳母の子に。

民には死産と告げられた。

サワラソウエンは涙した。

ひそかに嗚咽し涙した。

二度とはよけいに孕まぬようと

腹を裂かれて、縫われた傷に。



灰色姫の美貌と才知は、

アジャルディーンも気に入っていた。

あまたの妾をはべらせながらも

気まぐれに、

灰をも犯して、もて遊ぶ。

サワラソウエンは涙した。

ひそかに隠れて嗚咽した。

やがて気がつく。あの乳母は、

恋しきソルダスの、妻であったと。

兄とも慕った恋しき男が

それとは知らぬが我が娘の

優しく頼もしき養父であると。

灰色髪、灰色瞳。

おさなきタエラの成長を

かくれて見守る。

それだけが幸福の日々。



やがて小路国に狂皇が、雌伏朝貢を迫り来た。

海より獲れる、尊い真珠を小山ほどと、

それにもまして、尊い巫女姫たちをと。

アミルディソレルダス姫は、激しく拒んだ。

アジャルディーンは我が妻を呼びつけた。

おまえを贅として差し出す。

狂皇の慰みものに、なれと。

サワラソウェンに拒む自由はなかった。

ただ、同じ色の髪の子かな娘、

タエラだけは狂皇に差し出さずにいてくれと、

泣いて頼んだ。

伏して願った。

しかしアミルディソレルダス姫とアジャルディーン。

王家の二人は冷たく拒んだ。

灰色の髪の子かな娘たち、

少なくとも、二人は差し出さなければと。



このうえは。

せめて狂皇の寵をじぶんがとりむすび、

幼い娘の身だけは護ろうと

サワラソウエンは美しく身支度をする。

輝くばかりの花のかんばせ

輝くばかりの灰銀色の髪。

治道の人びとは輿入れの姫を伏し拝む。

現世の女神と、涙して伏し拝む。

サワラソウエンはその皆々の前で狂皇に穢される。

けだもののように穢される。

悪夢のように犯される。

そして。

じぶんはどんなことでもする幼きタエラだけは見逃してと

哀願し、嗤われ。

とことん、輪姦され。

その、屈辱の、時。



ソルダスが。

わが養女を返せと。

わが娘を返せ、われらが故郷を、自由を返せと。

志願の兵を連れ、警護の敵兵の間について…

迫り来た。

嗤いながら灰色姫を犯す将兵が一人を狂皇とおもいこみ、

刀をふるいその首を、巫女を髑るからだの上から切り離し。

そして。

ばかめと狂皇は嘲笑い、ほんの一瞬で。

ソルダスの命が、

消えた。



幼きタエラは犯された。

泣き叫びながら貫かれ、ゆすりあげられ、こすられ。

切り裂かれ、滴る生き血をすすられ。

あまたの兵どもに、次々と、

串刺しのごとく髑られて。

その苦鳴が煩いと。

呑まされながら、締められて、

縊（くび）り、殺された。



サワラソウエンは。

もはや泪も涸れ果てて、その一部始終をみていた。

持てる聖なるちから、すべての邪なる、怨呪のちから、

すべて。

慟哭の、叫びのうちに解き放ち。

そして...

星は、滅びた。

◇

.....は！

と、跳び起きた。

心臓が、早鐘のようだった。

恐怖と絶望に...

身が、すくんだ。

◇

「...おや、起きたのか？ 久しぶりだね、ソレル。」

目を覚ますと、ベッドサイドには人がいた。

逢いたかった、あの人では...ない。

見慣れた、人だ。

「...ディアン...」

しばしば「女史」とも呼ばれる世に高名な MARIA=ソレル博士は、同じ MARIA 姓を名乗る一族のなかでは地球語のあだ名「ドクター」で呼ばれる、色違いの遺伝子を持って生まれた従姉妹の名を、億劫げに... 呼んだ。

◇

第二夜 「 殺閥の物語 」

第二夜「 殺閥 の物語 」

地球式にいうと「年の近い従姉妹（いとこ）」という関係にあたる。

遺伝子の三分の一ほどを共有して生まれ、幼馴染でもあるマリア、ソレルが、持病の定期治療のためにしばらく浸かっていた睡眠槽から起き出す際に、担当医の義務として立ち会って声をかけたら、いつもの不機嫌そうな無表情をさらに歪めて、無念そうで憂鬱そうな、落胆と嫌悪すら混じるひと睨みで返されたのには、いささか気分を害した。

本人いわく、「夢見がとても悪かった。」せい。...らしい。

いつもなら定期治療明けにはすぐさま数多（あまた）いる助手たちに連絡をとりまくって大量の同時進行の仕事群を再開するのに、今回は、どうも、ぼんやりと虚空を見つめてばかりいて、

...様子がおかしい。

しかし検査の結果、脳波もふくめて特に病的と言えるほどの異常は認められないと。

そこまで調べて、しかし言葉にできない違和感に首をかしげながらも、ちょうど副医長が当直の交代時間だとやってきたので、マリア、ディアンはやれやれと伸びをしながら自室に引き上げ、いまだに着なれない深宇宙探査船医長の堅苦しい制服を脱ぎ捨てた。

身体洗浄室で洗浄器に手早く全身と髪を洗わせながら経口栄養液の缶を飲みほして簡単に食餌と給水を済ませ、自身の健康状態の数値もざっと眺めて点検だけして中央機脳に送り保存する。

そのまま送風機でからだを乾かしながら壁の操作卓をちょいちょいと押して、立体合成機でいつもの寝間着をからだの周りに創出する。

ついでにこのままこの場所で眠れるようにすれば完璧なのにと、いつもの愚痴を呟きながらもさすがにしかたなく二本の足で歩いて就眠容器に転がり込んだ。

目覚まし機能に時間を指示して、ためいきひとつついて目を瞑る。

医療者である自分は夢など視たこともない。

忙し過ぎて。



夢を、観ていた。

いや、そんなはずはない。

自分は、夢など、今まで観たこともない。

そんな、はずは…

……………



衣服は黒と決めていた。

返り血が、いちばん目立たぬ色だから。

幼い頃には野良犬とさげすまれ。

憎いおとなたちを倒して斃して。

いつのまにか国主と呼ばれ、僭王と罵られ。

面罵した者らはことごとく磔刑にさらして、

軽侮した近隣の王らは次々に攻め滅ぼして。

部下たちからは慕われ、

敵将からは憎まれた。

夢は大陸の統一と平和よと、

景気のよい看板を掲げて。

東に西に、縦横に、みじんも残さず攻め滅ぼした。



滅した部族にひとときわ優れた智将あり。

一族の皆殺しか、我に臣従しての命乞いかと選べと脅し。

やむなく屈する悔しげなその白面のさまが興味深くまた面憎く。

戦においては先陣を命じ、

退却においては後詰めの捨て駒のごとくに扱い、

和睦においては残虐なる使者の役を押しつけ、

平時においては嫌がる顔を娯楽に、

伽を命じ、また将兵にも鬪らせた。

しかし智将の叡智と働き凄まじく。

大陸の統一がなれば後はただ必ず和楽太平の世よと。

その言のみをひたすら信じて、幻国の采配を摂る。

ついに大陸の南も落ち。

幻国にすでに敵はなく、

戦に苦しむ場所もなし。

智将高熱を発しやまいに倒れ、

重く故郷に伏す。

幻帝は怒り再三に出仕を命ず。



秋が過ぎて冬が過ぎて

幾度も死線をさまよい。

家人たちの寝ずの看病、

国人たちの納める貴薬、

やがて少しずつ病癒え、

春に花見の床上げの宴。

そこに幻帝まかりこす。

智将うろたえて弱々と立ち上がらんとす。

半年の病いえて今日ようやくに初外出の。

萎えた足でよろり立ち上がり拝跪の礼を。

その屈めた肩にむけ幻帝の剣が唐竹割に。

ざくりと。

病衣が斬れ肉が切れ血潮が飛び散って。

骨が断たれ肺が断たれ心の臓が断たれ。

「... な ぜ... 」

ひとこと呟いて智将は絶命す。

幻帝叫ぶ。

「なぜだと!？」

なぜ、避（よ）けなかったのだッ？」



幻帝に。

屈して仕えて四半世紀の青春の時のすべてを捧げて。

鬼と憎まれ非情と罵られても大陸の統一のためにと。

功なり、心労と自責に倒れ、

高熱と亡霊に魘（うな）されて。

今日は半年で初めての床上げの祝いでありましたと、

嗚咽しながら。

将の陪臣が帝を斬った。

後の世に「幻」と呼ばれることになる、その星はじめての統一皇国は、

瓦解した。



「...は！」

目覚ましの音に、ディアンは跳び起きた。

じぶんはだれだ。

だれだここはどこだ?!

◇

...ぼんやりと。

いつまでも、じぶんの手のひらを視ていた。

夢のなかで。

じぶんは「幻帝」と呼ばれるその野蛮な男であつたらしい。

今この医療用分子縫合機より重いものなど持ったこともない、典型的なリスタルラーノ
科学者階級の女性体の、細くか弱い両腕とは、まったく違う...

無骨な。

陽に灼け、刀傷だらけの、太く、...硬く、筋肉に鎧われた、

腕、で。

なんの殺意もなく、ただいつものように。

皮肉で洒落の効いた、軽い挨拶代わりのつもりで。

ただ。

いつものように。

いつになく長らく顔を観なかった、実のところ憎からず...

愛しく、想ってさえいた、つれない家臣の。

ひょいと身軽に素早く跳び避けては、その一瞬だけ、

嫌そうな、顔をする...

そう。

あの、きのう起きぬけに、従妹ソレルが自分に向けたその表情と、

そっくりな...

嫌そうな、顔を。

観たくて。

ぶんと、ほんの軽い気持ちで...

振り降ろした、自慢の名刀の。

やいばが、ずぶりと、ぐしゃりと、

...ずくりと。

大事な智将の。

命を、一瞬で、奪った...

その、手ごたえ。

...を。

震えながら、いつまでも、手のひらを眺めて...

、ディアンは呆然としていた。

◇

「...あの... ドクター? ...ドク・マリア.....？」

「だいじょうぶですかあ...??」

ふいに至近距離から声をかけられて、ぎょっとして、ふり返った。

「... おまえさんか... 」

よく見知った顔だ。ソレルの部下のひとり、サキ・ランダ。

「...鍵は、かけてたはずだが...？」

ようやく動き始めた頭で、とりあえず、答えはわかりつつも、あえて定番で返す。

「すみません。もしかして非常事態かと思ったんで、無断で跳んで入りました。」

「あいかわらず便利だな。超能力者（エスパシヨノン）というやつは…」

「ソレル女史（ソリ・ソレル）の様子を見に医局に顔を出したら副医長（ヘレナ）が心配してたんですよ。当直交代の時間を過ぎてるのに、まだ連絡すらないと」

「…あッ！…」

言われて、ようやく、我に返った。

「いま何時だ!？」

「交代時間を20分ほど過ぎてます」

「うわ!？」

「ヘレナに連絡いれときますね?」

「たのむ!」

言いながら慌てて就眠容器から起き出そうとして、あやうくバランスを崩しかけた。

「…おっと、」

女性とも思えぬ長身美丈夫のサキが、素早くディアンの体を支える。

「…すまん…」

「どうしたんです? らしくもない」

問われて、返答に窮する。

先ほどまでの、夢のなかの自分の、巨大で魁偉な強靱な肉体だったつもりで、

力の入れ加減を間違えた。などと...

説明しづらく。

「...どうも、...夢見が...悪くて...」

歯切れ悪く、言葉を濁す。

「...ええ？ ドクもですかあ？」

頓狂な声。

「そういえば、ソレルの調子はどうだ？」

「変なんですよ。治療槽から出て半日以上も経つのに、まだぼーっとしてて。」

仕事の指示待ちの連中が矢の催促なんで、私が代行するハメになってまして... その分、私の担当の艦内業務のほうにしわ寄せが。」

「...まだ、様子がおかしいか？」

「今のドクと同じような...感じじゃないかと...」

「...そうか...」

副医長（ヘレナ）にはあと五分ほどで行くとサキに連絡をとってもらって、ディアンはとにかく、急いで出勤の仕度を始めた。

◇

第三夜 「 遺された エルの物語 」

第三夜「 遺された エル の物語 」

長年の直属上司と、その上司の親友で親戚でもある担当主治医が、ほぼ同時に同じような変調をきたしてしまって、いささかならず様子がおかしく。

その心配をしながらも、仕事の肩代わり分に忙殺されて事態を深く考える暇もなく。

とりあえずソレル女史がいつものように、睡眠治療槽に入っていた数ヶ月のあいだにぞろぞろと伸びてしまった長い長い銀の髪をばっさりと切り落として勤務用の科学者の公式正装に着替える気になってくれて、いまだすこし反応に間延びした印象はぬぐえないものの、何とか平常どおりの業務を再開してくれたのに安心して。

サキ・ランは超過勤務を一旦うちきって私室に戻った。

「...夢見が悪って... あの二人に限って、何でまたそんな非科学的な...??」

ぼやきながら、たっぷりの泡をたてて深宇宙探査船の上級乗組員用のそれなりには広い私室のなかに自前で持ち込んできて据え付けた移動用小個室内の横寝型開放浴槽にのんびり浸かって、長い髪と全身をのんびりと丁寧に洗い、今日の疲労と弛緩を明日に持ち越さないようにと、湯あがったからだで十分な筋肉展張運動をしてから元々の本業である奉納神職舞踊の基本動作をひとつおろ流して、小一時間の軽い基礎訓練の日課は、決して欠かさない。

やれやれと。再び軽く汗を流してから夜食を胃に入れて洗顔と歯磨きを済ませて、あくびをしながらのんびりと、寝床に入った。



恋人は、紅い。

紅い、赤い...

血にまみれた肉片と化して、無惨に四散した。



絶叫した。

喉も裂けよとはこのことだったかと頭の片隅でぼんやり考えていた。

テロだった。

考えれば判るはずだった。恋人は狙われていた。

衆人環視のなかで誰が紛れこんでいるとも分からぬ屋外の仮設の開放会場で、

反政府・人権復興活動の、開始を。

宣戦布告する。

そんな、...大役を。



「時間ですよ」と、自分は言ったのだ、無情に。

「ちょっと待って!」と、エイリスは言った。

「ちょっと待って。少しだけ、十五分だけ!」

「なにを言ってるんですか? もうみんな集まってるし、時間はむしろ押してる」

「急用が出来たんだ!」

「なにをばかな」

「急いで行って来ないと! 時間がない!...すぐに、戻るから!」

「なにを言ってるんです？ もうみんな集まってるって言ってるでしょう？」

「だって！」

「どこに行って何をしようと言うんですか…」

この集会よりそのほうが大事だって言うんですか？」

「…だって…！」

「わがまま言わないで。私たちが今日の準備のためにどれだけ苦勞したと思うんですか？
そもそもあなたが言い出したことでしょう。我々中層市民にも、下層民の一斉蜂起を支援する、道義的な義務があると。」

「…そ… れは、… そうだけど…！」

「あなたが職務放棄すると言うなら、我々も考えますよ？」

恋人なのに。

じぶんの、恋人なのに。

…

どこへ行って何をしようと考えているのかは、薄々、気がついていた。

わたしの…

最愛の、唯一の、

ひとなのに…

他の、誰かの、あのひとの…

見送りに。

行きたいと… 言うのだ。たぶん…



「さあ。わがまま言わないで。あなたの役目を、きちんと果たして？」

「でも！...お願い！ 式次第の順番を少し変えてくれるだけでいいんだ！

アレンの宣誓を先にまわして！ その間に、すぐに行ってすぐに戻って来るから！」

「...時間を、守らない気なら、わたしの部下の参加は、見合わせ、させますよ？」

すり抜けて走りぬけて誰かの見送りに行こうとする恋人を、じぶんは全身で、さえぎった。

「さあ。時間です。」

「...恨むよ、エルさん...ッ!？」

泣き腫らした、紅い眼で。

それが、最後にじぶんに向けられた、... ことば。だった...



爆殺。



非暴力で行われるはずだった反政府抗議行動は、そのまま武装蜂起になった。

だれもが怒っていた。

もともと組織化されて革命完徹！ と叫んでいた地下勢力だけではない。

安定階級と呼ばれた中層市民も、いや、上級支配階層の人間たちでさえ。

人気者のエイリスを、無惨に爆殺した。... その罪の、一点で。

半狂乱になって、旧政府指導者層を指弾し糾弾し放逐した。

ちからづくで血統支配の塔は砕かれ、権力者たちは捕縛され、裁かれ。

短時日のうちに全ての支配体制が覆った。民衆の、自由の、...国家に。



《犠牲者》として《亡き》エイリスは称えられた。人民の英雄と。

壇上で爆殺された。

血まみれで、からだは四散した。

その、ゆえに。

亡き、英雄と...



しかし...

革命で追われた旧支配者層らのすべてに代わって革命応援者として医療局最頂代表の地位を得た、じぶんは。

まるで旧時代の支配者層らの傲慢そのままに、特権を濫用し。

ぼろぼろに砕かれた恋人の肉体に、禁断の、再生措置を...

ひそかに、かつ公然と...

半狂乱で、施していた。

「しかし！ 脳と人格の再生が不可能な場合の肉体のみの蘇生措置は違法です！」

「法が何ですか？ 国家が転覆した今になって、何のための遵法精神?!」

「そもそも無理です！ ...無茶です！」

「脳も記憶も人格まで！ すべて原状回復させます！ 私なら...ッ出来る！」

そう、言い切って。

そして...

その、結果...



朝だった。

いつもの目覚まし時計の音楽が、呑気に鳴っていた...



第四夜 「見守りし者の物語」

第四夜「見守りし者の物語」

なんとかかんとか。

周辺に、微妙に怪訝な顔をされながらも、サキ・ランは、少なくとも表面上は、常に変わらぬ平静を...しばしば八方美人！と身内からは酷評されさえする、穏健で不変で真意の読めない笑顔を、保ちつつ、過重な職務に集中しようと、...努力してはいた。

ともすれば、思考は泥沼の悪夢のなかに、引き戻されようとする...

「...おい！」

案の定、聴きなれた、苛苛した声が、邪魔をしに来た。

「おい！」

「.....なに？」

「なにかが色々、すご〜く、変だと。あたしは思うんだが？」

「なにかが色々。とはまた。具体的には？」

韜晦（とうかい）してみるが、釣られる相手ではない。

「誤魔化すな。あんたが気がついてないはずないだろう？」

「買いかぶっていただきまして...」

「おい？」

サキ・ランは「最近老眼で...」などと冗談めかして愛用している細い銀のふちの超旧式

な硬化硝子製の薄い光学眼鏡風に見せかけた実は最新方式の自作の視力補助装置をはずして、やれやれと、疲れた眼をこすった。

「ソレル女史とドク・マリアは、たしかにここ数日、ものすご〜く、変だねえ？」

「今朝から、あんたもだろう？」

「...いちいち、気がつかなくていいのに...」

「あん？」

「他には、誰と誰に気づいた？」

「...ラルブと、オロ。ヘレナも昨日の仮眠からだろ？ 今朝はアサトと、ミドルと、エドと、オーバと...？」

指折り数えるようにそらんじていく人数の多さに、サキはげんなりと、頭を抱えた。

「やっぱりか...」

「まだ他にもいたか？」

「いや、私の観察結果と一致。」

「じゃあいいだろ」

「多すぎる！」

「だな？」

会話の相手である、サキ・ランの相方（と自称している）ジースト星系人、レイズは、青い髪をかきあげながら、金色の瞳をすがめた。

「なんなんだよ？ これだけ人数揃えて、いきなりみんな【夢見が悪い】つつうのは...」

「空調食糧飲料に投与薬剤に電波音波電磁波、気波に霊波。疑わしいと思える要因は一応全部、調査はさせたんだけど、」

「やっぱシゴト速ええな」

「今のところ、特に怪しい状況変化はなし。」

「ふ～ん...」

レイは腕組みして唸った。

「で。...明日はもっと、増えてそうなの... 気がしないか？」

「するねえ...」

サキも邪魔な前髪をかきあげながら、苛苛と呟いた。

これじゃ、仕事にならない...。

◇

「...ちょっと！レイ!?!」

お茶（ティレイカ）でも淹れて一服しようと、痛む眼のまわりをもみほぐしながら作業画面を仮保存して、立ち上がったサキ・ランに片手を伸ばして、ひょいと軽く担ぎ上げた長身大柄の相棒に、それなりに地球人女性としては大柄であるはずのサキは慌てて、もがきながら抗議した。

「どうせあんたも『眠るのが怖いわ～★』とかいって、徹夜で仕事しようかって組だらう？」

「.....も?.....」

引っかかったので、肩の上で暴れるのを一旦停めて、おそるおそる聞き返す。

「ソレル女史もヘレナもドク・マリアも他の連中も、判で押したようにそー言ってたんで...、

まとめて昏倒させてきた」

「...おたくねえ...」

サキは肩の上で脱力して呆れる。

「脳波記録を診るかぎりじゃ、悪夢とやらで魘されてるとかの間も、一応、からだは休めてるんだぜ？」

「それは確認したけど...」

「とりあえず寝とけ。さっきから明らかに、作業効率が下がってたぜ？」

「...それは、そうなんだけど...」

眠れない。のだ... 怖くて。

「寝かしつけてやるから？」

どさりと、寝床に放り降ろされて、サキ・ランは慌てた。

「...レイいいいッ？」

この同性の、(はずの)友人は、時々だが、思い出したように、性的な干渉を仕掛けて来る。

本人は、サキのことを愛していると、言う。

...友人。だとしか、想ってはいない。のだが...

◇

「...あッ！」

いきなり、脳内に、快楽を...

性的快感の、刺激を...

打ちこまれて、サキは全身で、揺れた。

「眠りたいんだろ？」

「...や〜めろ、ってえ... っっ！」

気波技術者（エスパッション）の多いジースト星系出身者のなかでも、とりわけ超絶級と称賛されるほどに高い能力を誇る《微細念動力》保持者のレイは、直接、サキの脳を弄ることができる。

「...ッ！！」

悔しければ抵抗してみろ等と、いつも笑いながら嘯くが、本来、サキは快樂には流される性格だ。

貞操観念というほどのこだわりも、ない。

「...ッ！...ッ！？...あッ！？！！！」

物理的には、同性の、大事な親しい友人から、ただゆるく...

抱きしめられて。

体温と安心感だけを、与えられながら...

全身の表皮をくまなく走り回る、快樂の火花と。

むずがゆいような、内奥に奔る...

もどかしさ。

そして、脳に。

.....直接。

「.....あ、あッ！」

.....アあ、あああ、あ？

ああ！.....あッ...?! !! ツ」

絶頂感を。

たたきこまれ、ねじあげられ、て...

あられもなく、揺れて、揺れて...

跳ねて、

叫んで。

◇

それでもサキ・ランは、乱れながらも...

叫んだ。

「...違う...

私が、

.....探して、...いるのは.....ッ！！」

◇

「まだ言う？」

◇

抵抗も、虚しく。

絶頂の波に、攫われて、さらわれて、

弄ばれて...

転がり、悶えまわり、猫のように叫び...

無力な獲物の兎のように、

跳ねて、跳ねて、跳ねて、

濡れて...

漏らして。

喘いで...

◇

まもなく、サキは、はずむ息をおさえるようにしながら...

すうと。

寝入った。

◇

「...寝てるときだけは、可愛いんだけどな〜...」

つれない同性の親友で、恋人？ の、寝顔を眺めて呟きながら。

レイも傍らでごろりと転がり、目を瞑る。

明日の朝、もう一度、いたぶって、遊んでやろう.....。

◆

...暗い、昏い...

松明のように揺れておどる、

黄昏色の...

閉ざされた、城塞で。

◆

上司だった。

ほかの相手に、惚れていた。

心の底から、わき目もふらずに、我が身もなげうつほどに...

惚れ抜いて、いた。

ただ、後ろから、見守るしか... なかった。

できれば、幸せになってほしかった。

気の毒な、恋をしていた...



(...なら、なぜ、俺にしない...?)

時折、激発して、力づくで我が物にしようとしそうには... なった。

できなかった。

冷たい、眼が。

自分を...

斬り捨てるのではないかと、

単なる部下として、さえも。

それでは、傍らにいて、守ることすら出来なくなる...

それが、怖くて...

言えなくて。



その想い人を、喪って。

みるも無残に。

取り乱し、やつれて、病んで、

心を失って...

死んだ。



後悔した。

寸日もおかず、即座に後追い自殺をした...

程度には。

なぜ。

なぜ。...言わなかった？

なぜ。

なぜ。

どうして、引き留めて、

振り向かせて...

幸せに。

自分が。

幸せに、...して、やることが...ッ!?



なぜ、出来なかったのだ...??



「………… レイツ？…レイ、どうした？ レイツ？」

揺り起こされた。

「………… ッ?!」

跳び起きた。

「…レイ………… ???」

「………… くっそ！ これかよ………… ッ! ???」

レイは、唸った。両手に顔を埋め、

…哭きながら…

サキは事態を理解した。

不撓不屈の皮肉屋で、負け知らずで敵なしの、超絶安定した気力と精神念動力を誇る相棒が。

声も抑えず、全身を震わせて慟哭するところなど…

初めて見た。

ただ肩を抱いて、哭き止むのを、待つしかなかった…

◇

その日。

ついに全艦に病は広がり。

まともに職務に就ける精神状態の者は…

無かった。

◇

第五夜 「放浪戦士の物語」

第五夜「放浪戦士の物語」

彼女も夢を視ていた。

遠く離れたあの辺境探査艦内では、乗りこんで行った親しい人たちの間で、何やらささやかだが奇妙な異変が起きている。

らしい...ということだけは、他の知人の乗組員たちから、そこはかとなく伝え聴いては、いた。

肝心の一番親しい仲間たちときたら、いつものごとく、例によって、...だ。

「心配かけたくなかった」とでも言い訳をするつもりだろう。

当たり障りのない日常の連絡報告ごとしか、通信を、寄越さない...

遠く離れた艦艇群に、自分も追いつく...

夢を視た。

もちろん自分は科学者ではない。追っても、担える任務はない。

こちらに自分の役割はある。

ソレル女史の留守を守り、有り余る資産と人財を管理し、後継者たちを育て。

国際間・企業間などの大規模なトラブルの仲裁に入り、名代として重要な会議や行事にも参加し、

親善、親睦を図り...

けして、置いて行かれたわけではない。役割が、別だったのだ。

それだけだ...

けれど、淋しかった。

ずっと、寂しかった。

いつもいつも、日々に、日ごとに...

(置いて、去かれた...)

虚しさばかりが、募っていった...



ふと気づくと、夢のなかで自分は筋骨隆々たる流浪の戦士だった。

傭兵というやつだ。

まるで若い人たちの好む迎夢の世界のようだと、くすりと笑った。

そこまではエリーも、(これは夢ね?)と、...自覚していた。



自分は戦士だった。

恋人は、吟遊詩人だった。

美しく、儂く、薄幸で、苦勞して...

傷ついて。

自分が、護ってやりたいと思った。

守れると、思いこんでいた。

傷つけた。

そんなつもりでは... なかった。

恋人は逃げた。

うろたえる自分から。

すぐに戻ると思って待った。動けば、すれ違いになってしまうと。

戻って、来なかった...



待って、待って、待った。

それから、追った。

追って、探して、追い求めて...

...恋、焦がれて。



再会できたら、再会できさえ、したら。

どんなことをしても詫びようと。

土下座して、跪いて、

赦しを請おうと...

追って、追って...

探し、求めて...

そして。



冷たい屍を、

自分は見つけた。



恋人は、自分を、待っていたのに...

すぐ、追ってくるはずと、

すぐ、近くで...

待って、いたのに。



追うことを、ためらった。

怒りに目がくらみ、一瞬、

面倒がった。

そんな自分を、...待って。

恋人は、自分のいた、すぐそばで。

冷たい冷たい、

骨に...

骨に、なっていた...



彼女...エリザヴェッタは。慟哭しながら撥ね起きた。

自分は...また！

同じ、失敗を...！

...しようとしていた、のでは...ッ??



跳ね起きて、即、

願望を。

行動に、移していた...



第六夜 「書き換える者の物語」

第六夜「書き換える者の物語」

「...報告は、以上です。...あえて文学的な言い回しをするなら...

状況は、絶望的。という感じですね...?」

報告発表用の光板の前で語っていたリール・ジュンナールは少しばかり疲れた貌で肩をすくめて、おどけたようにそう言った。

きのうは終日、緊急の対応に追われて、今日も未明になってから、ようやく艦内の主要職分の者が集まって、臨時の会議が持てた。

日に日に、いや夜ごとに、悪夢に魘され続ける者たちの症状は悪化していく。

かろうじて制服に着替えて出勤しては来たものの、間断なく嗚咽をこらえ、落涙し、とりとめもなく泣き崩れてしまって、とてもではないがまともに業務がこなせる状態ではない者たち。

それぐらいならまだマシなほうで、部屋から出て来ず、迎えに行くと、寝間着のまま茫然として、滂沱の涙とともに全てを失念している者。

激しく泣き叫び、見境なく床や壁を叩いて己を呪い、あるいは、誰かを恨み憎んで、喚きちらし狂乱している者。

虚脱状態に陥り、なにもかも眼にも耳にも入っていない様子の者。

酷いになると、発見された時には、自殺未遂で危篤。という有り様。

通常業務どころではなく、かろうじて動けてはいる者たちで励まし合って、手のつけようのない状態の他の者たちの無事確かめ、安全を確保し、危なげな者は薬剤で強制的に麻痺させて、冷凍治療槽に放り込んでまわるしかなかった。

科学的分析情報の記録報告の義務を担う責任者であるサキ・ランとジューンナールは、手分けしてその他すべての人々の業務分の、とりあえず記録と送信だけは死守しようと走り回ったので、肉体的にも疲労困憊していた。

ソレル女史は今も少し心もとなさげに放心している。会議の議長だというのに。

ドク・マリアはそんな女史を変な風に意識していて、観るからに挙動不審だ。

副医長のヘレナはひっきりなしに鼻をすすり、ともすれば泣き崩れそうになる自分を必死で叱咤激励して、医療者だという職務意識にすがって、かろうじて正気を保っている感じ。

冷静沈着な皮肉屋をもって鳴る老練なダーナー艦長でさえ、悪夢を恐れて幾晩もまともに眠れなかったのだろう充血した眼をして、肩を落とし、溜息をついている。

戦士として鍛え上げている不動の精神力の持ち主のレイだけが、比較的早く己を取り戻した...と、サキ・ランは観ていた。

ただ、何故なのか、やたらと、いつも以上に、サキに貼り着き、追いまわし、構いたがる場所だけが、閉口していたが...

「動ける奴が、結局、何人いるって？」

そのレイが、鬱陶しそうな顔で、伸びすぎた青い前髪をかき上げながら、訊ね返した。

「...ほぼ、おおむね、今この部屋に集まってる人数だけで... 全部？」

リールがまた肩をすくめながら軽さを装ってそう答える。

ほぼ、二十人にも満たない。

全艦数千人の乗員がいるはずの中で、...だ。

「運行停止と非常用回路の起動は完了している。」

ダーナー艦長が静かに追加した。

「事態が好転するまで一旦待機するのか、即刻回頭して最寄りの補給基地まで二ヶ月かけて戻るのか、はたまた、...御指示を頂けませんかな？ 女史？」

「...あ、ええ...そうですね...」

そんな有り様など今まで誰も見たことが無かったほどにぼんやりと放心気味の様子で、深宇宙探査艦隊の発起人であり出資者であり全責任者でもあるソレル女史は、曖昧な相槌を打った。

「...サキ。あなたの、意見は？」

「決めかねますね」

比較的立ち直りが速かった組、の筆頭に入るサキ・ランは肩をすくめた。

「原因も状況も解らなすぎる。かといって、動かずに様子を見ていたら好転するという保証もない。」

「そうですね...」

ソレル女史がぼんやりと、ごくぼんやりと...

なげやりに、相槌を打つ。

◇

「...あ？ をい？ ...ちょっと待てー！ー！ーッ！」

突然、虚空を睨んで、レイが叫んだ。

「なに？」

サキがびっくりして訊ねる。

「エリーが！」

「え？」

「跳ぶ気かよ！ アホかッ？」

「ええ？...えええええ！ 無理！ エリー！ 無理！！！！！」

超弩級『超のつく超能力者』と呼ばれる二人組が、宙を睨んで叫んだり騒いだりする姿を、比較的に慣れている人たちは、何事かと驚きながらも、質問している場合でもなさそうだと、本人たちから解説か指示がなされるのを待った。

「エリー...ッ！！！！！」

サキの悲痛な絶叫から、ただならない事態だということだけは判る。

「行ってくる！ 捕まえて、跳ばすから、アンタ受け取れ！」

「...無理だ！ 間に合わないッ！！！」

叫び。

◇

突然。

ぐにゃりと。

空間が、歪んで...

人が、二人、墜ちてきた...

どさり。どさり。

「おう。あいててて…」

「痛たたた…？ ……？？ …あ！ サキ！ 女史はッ？」

「エリー、無事?!」

慌てたサキが声をかけるが、エリーはそれどころではない。

「女史はッ？」

「…私なら、ここにいますが…」

何もなかったはずの空間から突然落下してきた二人のうちの一人、いくらか歳を重ねたとはいえ未だに「宇宙一の美女」の名声を一手に引き受けるエリザヴェッタ・アリス・ドンナ＝レニエータ姫が、打ち付けてすりむいた膝などどうでもよさげに、寝乱れた髪に室内着のまま、がばりと立ち上がり、よろよろと必死で奔った。

「女史ッ！ …ああ、良かった、無事だった！」

「…無事ですが…」

困惑して、眩く、そのひと。

すぐ膝の前にうずくまって、エリーはぼろぼろと泣き出した。

長年の腹心の部下の予想外の取り乱しように、元からそうした人間関係が苦手な女史は対応しかねているのが、見るからにありありだ。

「…生きてたんですね…っ！」

◇

レイが厭そう～に顔をしかめて、サキを肩で小突いた。

「…おい。もしや、この悪夢現象って…」

この艦内だけじゃないのか…？」

「...それあまり考えたくないな〜...」

◇

ぼそぼそと語り合う同僚たちの声など耳にも入っていない様子で、エリーは安堵のあまりか、ついには床に突っ伏して哭き出した。

「エリー...。泣かないで...」

観ていた周囲が驚いた。

他人の皮膚と接触することを極端に嫌がるソレル女史が、非力な細い腕で、豊満な肢体を誇る自分より上背のある相手の上体をなんとか引き起こし。

おそるおそる、抱きしめたのだ。

「だいじょうぶです... 私は、ここにいますよ...?」

「...女史が、死んでしまった夢を視たんです!」

「...ここに、いますよ...?」

ソレル女史がすこしばかり腕をゆるめてエリーの瞳を覗きこむようにした。

そばにいたマリア、ディアンが、何故だか苦々し気に顔をゆがめて視線をそらした。

「...だって!...いえ、正確に言うと女史ではなかったかもしれないんですけど...

だって夢でしたから!

でも、もしや、万が一、予知夢か、まさか、正夢ではないかと思ってッ...!」

◇

「...だからって、この距離を、念動力は最低等級のアンタが、いきなり跳躍するかよ...ッ??」

レイが呆れて叫んだ。

「死んでたぞッ!? 普通!?!」

「...通りすがりまして、何よりでございましたな...」

宙から落ちてきたもう一人、この場に居合わせた者の誰もが知らない顔だった人物が。

膝のチリをはたく動作とともに立ち上がりながら、もったいをつけて、そうのたまった。

「...で? あんたは?」

うさんくさげに、レイが訊ねた。

◇

「...救けてくださって、ありがとうございました。」

慌てたエリーがソレル女史の細い体を惜しそうに離しながら、慌てて割って入った。

「わたくしはエリザヴェッタ・アリスと申しますわ。貴方のお名前をお伺いしてもよろしいですかしら?」

「おお、よくぞ尋ねて下さいました!」

とたんにソレル女史の銀の細い眉毛が、嫌そうに下がった。

この場にいるはずのない、皆がよく知る他のある人物に、言動と雰囲気、そっくりだったので...

細身で短軀の見慣れない風体の男性は、大仰に、地球の旧時代の中世欧州の騎士のように、両腕を上げたり曲げたりしながらゆったりと頭を下げた。

「それがしはジョゼアール・エリア・エリ＝アモンと申す者。どうぞジョゼとお呼びくださいますかな？」

お目にかかれて大変光栄に存じますぞ、ドンナ・レニエータ姫！」

「...エリーでけっこうですわ...」

「で？ だから、アンタだれ？ 何なんだよ？」

同僚の社交儀礼努力などは全部すっ飛ばして、レイがもう一度、要点だけを尋ねた。

「いまアンタこいつが無茶な空間跳躍して四散しかけたところを、宙の宙で受け止めて包囲して自分と一緒にまとめてここまで空間転移をしておいたよな？」

あんな離れ業、残念ながらこの《破壊成功者（シスターナ）》レイズ様でも無理だぜ？

そんな物凄い超絶能力者が実在するなんて、噂すら聞いたことがない。」

「これはしたり。」

ジョゼと呼んでくれと申告した男は、ふたたびおどけたように、左手を胸に当て、右腕を斜め後ろに泳がせる... ジースト人のレイは知らなかったが、エリーの故郷である地球西洋の古典的な... お辞儀をしてから、しゃあしゃあと述べた。

「それがしは歴史遡行者。過去を改編する者。」

はるか未来より来たりし時空間法を冒す犯罪者...とでも申せば、通じますかな？」

この時代の、三次元世界の、皆様がたにも...??」

「はあ？」

レイを筆頭として、幾人かの者は、まったく判りませんねと、あからさまに顔をしかめた。

◇

「...では、航時念能力者ではない、と？」

ささやかながら時間跳躍の能力を持つサキが、かろうじて話の接ぎ穂を見つけて突っ込んだ。

「いやはや、残念ながら。」

「そうですか。」

「それゆえ生憎、時間があまり赦されてはいないのですよ、違法航時機盗用犯罪者の身ともなれば」

「...はあ、」

意味が不明だ。

「それゆえ、お伝えしたき事柄どもは、すべてこちらに収（おさ）めてありますぞ！」

「なんでしょう？」

未来より来たとか自称する割には言葉遣いが大時代的なリストラーナ古謡語だったりするわりには、情報媒体だけはきちんと当代に合わせてくれている？

らしいところが、何だか更に怪しい。

「カエンジュの件でございますよ！」

「なんだって？」

「この時代の、こちらの世界では、《苛怨樹（カエンジュ）》と呼ばれておりませなんだか？」

「? ... ああ、リスタルラーナの古語では《謎巡（オリセルラ）りの狂星（レイジア）》のことですね？」

意外なことに、ソレル女史が食いついた。

「しかり！... しかり！」

ジョゼアールは、もみ手をしながら嬉しそうにうんうんと頷いた。

「なんですか？」エリーが首をかしげる。

「くだんのあれですか？ 例の、《目的物件》。」

心当たりがあったらしく、ダーナー艦長が問いかける。

「それです。」

ソレル女史が、先ほどまでの虚脱状態が嘘だったかのように、いつものしっかりとした鉄仮面のごとき無表情をとりもどして、ごくごく冷静にうなずいた。

「我が艦の本来の探査目的である、《超常能力者（エスパッショノン）》大量異常集中発生と普通人社会との軋轢発生から大迫害の混乱期を経て自然消滅に至る幾度もの歴史的周期と同調して、この銀河第三腕の近傍を楕円状に駆け抜ける、あの...」

「《恨み辛み星》（オリザドダレイド）！」

レイがジースト語で、該当する単語を叫んだ。

「皆さんこの時空間系列ではご存知なかったようですが、アレがつまりその、今般の《悪夢続き》の直接原因でして...」

「あんだってえええ！？」

「それゆえ、自衛手段を持たずにうかうかと近寄ってしまった者たちが悪夢で自滅して、非業に落命した魂たちが怨恨星の底なし闇黒の重力井戸に捕えられてしまい。その哀れ

な腐霊魂たちの集積体が、さらにさらに新たな犠牲者を呼んでは、事態を悪化させまくっておりますのでしてね...

それについての詳しい情報と、攻略方法についてでございます。」

うんうんとジョゼが自慢げに、うなずきながら講釈する。

「なぜ、あなたが？」

うやうやしく差し出された小さな情報記録媒体を受けとりながら、ソレル女史が尋ねた。

「灰色姫と呼ばれたサワラソウエン様の苦悩を知る者だからでございますよ」

は！ と、女史の全身がかたまった。

「女史？」エリーが心配げに覗きこむ。

「...なぜ... あなたがそれを...」

細かく震えながら、女史は再度問うた。

「御恩を賜った者のひとりでございますので。」

またもや勿体つけて、時間遡行者は女性科学者に深々と礼をした。

「...もっとも、この場に居合わせた皆様は、すべからく因果因縁前世転生からの綾結びのかたがた。

今度こそ、すべての苦難を乗り越えて、みごと、あの、変わり果てた《灰色星》の亡霊を！

無事に浄魂させて下さるものと、信じておりますぞ...！

◇

...おっと！」

きょろり。と、大きな両眼を動かして、ジョゼは飛びあがった。

「時間がないッ！」

どこかの白兔のようなことを呟いて。

瞬間、彼は『空間跳躍』して...

消えた。

◇

「ちょっと！ 待ちなさいよ、この航時宙機ドロボウッ！」

どこかの空間から、そんな声が...

響いた。

◇

第七夜 「苛烈怨呪の物語」

第七夜「苛烈怨呪の物語」



「これらは概ね第5～7次元界に属する知識と概念を、皆様がた今現在3.5次元あたりの言語使用者に理解可能なよう、かなりむりやり平易に意識と超訳をいたしておりますので、表現が大づかみすぎる、あるいは曖昧だという点に関しては、御容赦願います。」

開かれた情報媒体の冒頭、ジョゼと呼んでくれと称した男は、そう述べて、また深々と気取った礼をした。

「《苛怨樹（カエンジュ）》または《苛烈怨呪》とも称される、別称《苛星》の件ですが、その発見と解明の歴史は…」



《リステラス銀河星雲》内の各文化圏において一般に《先史文明》と呼ばれている謎の超古代・超高度物質技術文明の滅亡原因については、三次元世界の現時点においては未解明であり解説は控えるが、その衰亡期、とある辺境星域に《灰色星》と呼ばれる平凡な惑星があった。

住民の大半は能力の劣る亜人であったが、一部には先史文明における権力階級であった《超人》たちの脳力特徴を色濃く受け継いで生まれてくる、いわゆる《先祖返り》の子どもたちが存在し、《灰色族》と尊称された。

歴代最高の神通念動力を持つと称えられた灰色文明末期の《巫女姫サワラソウエン》は、しかし辺境素民階級の出自のゆえに政治力には劣り、権力闘争に敗けて悲惨な最期を遂げた。

『その恨み、天をも揺るがし、星、滅びたり』と、古文献には残る。

悲嘆と絶望は周囲のすべてをまきこみ、瓦解した惑星において突然の死に陥れられた多すぎる魂の多くはその哀しみと苦痛と怒りの激しさから自我を失い、近隣諸域からも総出で救援に向かった《転生管理委員会》の必死の救出転生作業も間に合わず。

その一瞬にして滅した肉体に宿っていた魂魄亡者群の大半は、《星》と概念されていた架空の重力井戸に囚われたまま、史上最大級に近い規模の《呪縛霊体》と墮した。



《疑似惑星》に近い規模の霊的宿体を持つがゆえに、その存在は《転生管理委員会》の直接干渉下からは離れた。

《死星》の表面から芯の奥にいたるまで、すべからく充満する恨み辛み哀しみ怒り絶望と痛苦の邪波動は周辺星域に被害をもたらした。

怒りと嘆きのままに生命魂魄の溢れる宙域へ、まるで意思あるもののように吸い寄せられては、その地その星のすべての魂を穢し陥れて滅した。

すべての幸せなる者を憎み妬み凍結させ、滅した。

その《苛死星》は怒りと嘆きと哀しみに任せ気狂いのまま徘徊し、周回した...



被害として。

いくつもの星雲や星系で当代の文化文明が滅び代表人類が滅した。

《苛星》が近づく際の兆候としては、まず《異能》や《超常力》と呼ばれる念動精神力の強い子らと、またそれらの存在を強く憎む我欲が強い者たちが多く生まれ、彼我の軋轢が生じ、後の世に《神と悪魔の闘い》や《魔女狩り》と語り伝えられた大規模な悲

劇が多く生じた。

さらに《苛星》が近づくと、魂ある者はみな《転生過去全史上における最も悔恨に満ちた苦痛の記憶の再現》の悪夢に囚われ、正気を喪失し、狂乱のままに自滅し、その魂の多くは《転生管理委員会》の救出の手が及ばず、そのまま《苛星》に同化し、《怨恨集積体》の一部と化した...



「...《転生過去全史上における最も悔恨に満ちた苦痛の記憶の再現》...？」

じつに嫌そう～な顔で、一同各々が呟いた。

「...つまり、物理的距離的に、接近すると、惹起される現象、ということですか...」

ダーナー艦長がまだ赤かった眼を怒りに燃やししながら、悔しげに鼻を鳴らした。

「早急に回頭し回避行動に移ります。御許可を、ソレル女史？」

「お願いします。被害の及ばない一定の距離を確保した上で《目標星》の周回軌道に固定を」

「了解しました」

サキ・ランやリールを初めとして、航宙技能持ちで、今まだ精神的に「動ける」者らは皆一斉に艦長を補佐するべく、一旦退室した。

居残った少数の者は、ジョゼの映像の続きを先に観続けていた...



【 朝 】

【 朝 】

◇

...は！

と、楠木律子は跳ね起きた。

枕元と部屋の向うと二カ所に仕掛けた目覚まし時計が正確無比にして無情に、けたたましく鳴り響いている。

時間だ。

朝だ。

今日も仕事に行かなければならない。

生きて、いくために...

唸りながら起き出そうとして、律子はじぶんが先ほどまで、もと何か大切なことの夢を...

長くて複雑な、入り組んでいて矛盾に満ちた、美しい、奇怪な、おぞましい、恐怖と涙の夢を...

観ていた、気がすると、漠然と...

思い出した。

...なんだったっけ... ???



怨恨とか、悔恨とか、

快樂とか、復讐とか。

魔物退治？ とか、

因果応報？ とか...



まだ少し時間はあるし。と、

覚えていることだけでも書き止めようとは思ったが、メモ帳をさがしているうちに、細かな断片もすべて雲散霧消してしまった。

なんだったっけ...??

上の空で出勤の仕度をしながら考える。

ソレ、が、来襲すると。

憎しみと、妬みと、排斥が、増幅されて...

注意しないと、巻きこまれるのだ。

そして...



どうやって、退治すれば、効くっていったんだっけ...????



窓の外では、いつものように、かまびすしい、安物のメガホンの音ががなり立てていた。

「隣国人は出て行け〜ッ！」

「隣国なんか、要らない！」

「我々愛国人は、断固、隣国移民を排斥するぞ〜っ！！！！」



おかげさまで、軍需工場は増産体制だ。

今日もとことん残業を押しつけられることだろう。

まもなく、開戦だ…。



(起きろ！)

(第1稿) (ほぼぶっつけ草稿)

(第1稿) (ほぼぶっつけ草稿)

(第1稿)

(ほぼぶっつけ草稿)

(2019年08月13日) 第一夜 「 灰色姫の物語 」 (第一稿) (というか草稿?)

<https://85358.diarynote.jp/201908132350289874/>

<https://85358.diarynote.jp/201908132350289874/>

<https://85358.diarynote.jp/201908132350289874/>

<https://85358.diarynote.jp/201908132350289874/>

2019年8月13日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18 <https://85358.diarynote.jp/201908132350289874/>

↑

※項目 (【リステラス星圏史略 (創作)】の【1616】件) 目! ☆

<https://85358.diarynote.jp/201908122028274221/>

の続き...

=====

◆登場人物◆

サワラソウェン (灰色姫) : 灰色王国の養女姫。元・巫女長候補。

アミルディソレルダス姫 : 王家に生まれた巫女姫。(なかのひとエルさん)

アジャルディーン : 灰色姫の夫。王婿。

ソルダス : 灰色姫の片恋相手。王宮衛視長。(身分は低い)。

タエラ：サワラソウェンとアジャルディーンの実子。そうとは知らずにソルダスが世話を
する。

ドレドラウド：新興国の狂帝。

=====

夢を視ていた。

深い深い、魂の奥のおくの底のそこの、澱のしたの淀みのさらにおくの

深い深い、ところの、いやな...

記憶の夢だ。

いつもの夢だ。

いや、そうだっただろうか？

一瞬だけ、いまの理性がちらりと目覚めておもう。

自分は、夢などいままで、視たことがあったのだろうか？

夢だ...

灰色、の。



その惑星（ほし）の空は長らく一面の灰色であった。

それゆえに灰色は尊い色であった。

神聖なる巫女らのまとう衣もまた一面の灰色と定められ、

灰色の髪をもち生まれついた赤子らは

すべて神殿へと納められるしきたりであった。

サワラソウエンは貧しい家に生まれた。
貧しいみじめな辺境の寒村の、
風が吹けば屋根が飛ぶような、
貧しく賤しい小屋かけの、
村はずれの海べりで、
やはり貧しくて貧しくて定まった妻を得ることも叶わぬ
貧しい日雇いの魚獲りたちの
そのまた下働きを相手に、
春をひさぐ醜く瘠せたはしための腹から生まれた、
父無しの子であった。

しかしサワラソウエンは美しい、それはそれは美しい、花のかんばせと、
それ以上に尊貴とされる、灰色の長い長い、渦巻く髪をもって生まれた。
生まれながらに気高い心根と、
誰に教わったわけでもない、
真の叡智を持っていた。

その噂は辺境を超え、街邑を超え、遠く遠く、小路国の王宮にまで届いた。
王は評判を聴きたいそう喜び、幼い少女の成人の年である八歳の誕生月に、
はるばる王宮より、迎えをつかわした。

貧しく醜く年老いた実の母に、否やはなかった。
喜びと名誉に哭きむせび、下賜された多くの宝物と引き換えに、
慶んで、実の娘をさしだした。

サワラソウエンに断る自由はなかった。
ただ、幼馴染の友やら親戚やらの幾たりかを、
供に連れ、王宮での士官の道をと、
控えめに望んだだけだった。

サワラソウエンは美しかった。
王宮へ至る輿入れの行列を
沿道の人々は、みな喜悅して涙しながら、
ふし拝み、祝福を願った。
女神と呼ばれ灰色姫と称えられ、
少女は王宮へと至った。

美しい巫女姫をひとめ観るなり、

年老いた王は狂喜して、わが閨へと望んだ。
長らく空位であった正王妃の地位を与えようぞと。

王の唯一の血縁にして後継姫たる
巫女長アミルディソレルダス姫が、
鋭くそれを拒んだ。

すべての灰色の髪の子は
神殿に、収めるが王の務めと。

老王は嘆き哀しみ秘かに犯し穢そうと試みたが、
毒牙は巫女長によってからくも防がれた。
灰色姫は王宮奥深い正神殿に納められ、心静かに、
日々に夜々に、その先視と神語るちからを磨いた。

穏やかな、日々であった。
ただ、故郷より伴いし幼馴染の、
兄とも慕い育った少年ソルダスが、
衛視として王宮によく仕え、手柄をとりたてられて、
衛視長の娘を娶ったと。

風の報せを耳にして、密かに涙を流したほかは。

歳月が流れ、老王は死病の床に伏した。
後継王婿として、隣国の王アジャルディーンが名乗りをあげた。
後継巫女姫を妃にもらい受けよう。
ふたつの王国をひとつにまとめ、
共に栄えるよう、自分が盛り立てよう。

巫女長姫の退位還俗のあとめは仙才優れた灰色姫よと、
民のすべては悦び望んだ。
しかしアミルディソレルダス姫は
サワラソウエンに命じた。
私の代わりに巫女職を返上し、
老王の養女となり、アジャルディーンの子を産めと。

サワラソウエンに断る自由はなかった。
秘かに嗚咽の涙を噛み殺しながら、
養女の儀式で王に穢され、
花嫁の新床にて、

王婿に犯された。

泣きながら孕み、
泣きながら子を産んだ。
生まれた赤子は娘であった。
王家の生まれの灰色の娘であった。

アジャルディーンは舌打ちした。
本国にすでに愛妃と愛児はあった。
あとめ争いの面倒などごめんだと、
赤子は奪い去られて乳母の子に。
民には死産と告げられた。

サワラソウエンは涙した。
ひそかに嗚咽し涙した。
二度とはよけいに孕まぬようにと
腹を裂かれて、縫われた傷に。



灰色姫の美貌と才知は、
アジャルディーンも気に入っていた。
あまたの妾をはべらせながらも
気まぐれに、
姫をも犯して、もて遊ぶ。

サワラソウエンは涙した。
ひそかに隠れて嗚咽した。

やがて気がつく。あの乳母は、
恋しきソルダスの、妻であったと。
兄とも慕った恋しき男が
それとは知らぬが我が娘の
優しく頼もしき養父であると。

灰色髪の、灰色瞳。
おさなきタエラの成長を
かくれて見守る。

それだけが幸福の日々。



やがて小路国に狂帝が朝貢を迫り来た。
海より獲れる、尊い真珠を小山ほど。
それにもまして、尊い巫女姫たちをと。

アミルディソレルダス姫は、激しく拒んだ。
アジャルディーンは我が妻を呼びつけた。

おまえを贅として差し出す。
狂帝の慰みものに、なれと。

サワラソウェンに拒む自由はなかった。
ただ、同じ色の髪の子かな娘、
タエラだけは狂帝に差し出さずにいてくれと、
泣いて頼んだ。
伏して頼んだ。
しかしアミルディソレルダス姫とアジャルディーン。
王家の二人は冷たく拒んだ。

灰色の髪の娘たち、
少なくとも二人は差し出さなければと。



このうえは。
せめて狂帝の寵をじぶんがとりむすび、
幼い娘の身だけは護ろうと
サワラソウェンは美しく身支度をする。

輝くばかりの花のかんばせ
輝くばかりの灰銀色の髪。

沿道の人びとは輿入れの姫を伏し拝む。

現世の女神と、涙して伏し拝む。

サワラソウエンはその皆々の前で狂帝に穢される。

けだもののように穢される。

悪夢のように穢される。

そして。

じぶんはどんなことでもする幼きタエラだけは見逃してと

哀願し、罅られ。

とことん、罅られ。

その、屈辱の、時。

ソルダスが。

わが養女を返せと。

わが娘を返せ、われらが故郷を、自由を返せと。

志願の兵を連れ、警護の敵兵の間について...

迫り来た。

嗤いながら灰色姫を犯す将を狂帝とおもいこみ

刀をふるいその首を、姫を犯すからだの上から切り離し。

そして。

ばかめと狂帝は嘲笑い、ほんの一瞬で、

ソルダスの命が、

消えた。

タエラは犯された。

泣き叫びながら犯され、

五月蠅いと罅り殺された。

サワラソウエンは。

持てる聖なるちから、すべての邪なる呪のちから、すべて。

慟哭の叫びのうちに解き放ち。

そして...

星は、滅びた。



...は！

と、跳び起きた。

心臓が、早鐘のようだった。

恐怖と絶望に...

身が、すくんだ。

「...おや、起きたのか？ 久しぶりだね、ソレル。」

目を覚ますと、ベッドサイドには人がいた。

逢いたかった、あの人ではない。

見慣れた、人だ。

「...ディアン...」

しばしば「女史」とも呼ばれる世に高名なマリア＝ソレル博士は、同じマリア姓を名乗る一族のなかでは地球人風のあだ名「ドクター」で呼ばれる、色違いの遺伝子を持って生まれた従姉妹の名を、億劫げに...呼んだ。

コメント

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月14日 0:36

066

8

344☆

予定時間大幅オーバー！

本日これまで！

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月14日 0:38

んで。(^^;)

ぶっつけで書きながら（ほぼ「自動書記」状態）

「へ～★細部って、こういう話だったんだー。

思ってたのと、ちょっと違うな～w」

とか、言ってる本人...★

(2019年08月14日) 『苛怨呪の物語』(仮題) 第二夜
「殺閥の物語」 (第一稿)

<https://85358.diarynote.jp/201908142321092431/>

<https://85358.diarynote.jp/201908142321092431/>

2019年8月14日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18 <https://85358.diarynote.jp/201908142321092431/>

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190814/85358_201908142321092431_1.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190814/85358_201908142321092431_2.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190814/85358_201908142321092431_3.jpg

<https://85358.diarynote.jp/201908132350289874/>

の続き。

=====

◇

地球式にいうと年の近い従姉妹(いとこ)という説明になる遺伝子の三分の一ほどを共有している幼馴染でもあるマリア、ソレルが持病の定期治療のためしばらく浸かっていた睡眠槽から起き出す際に、担当医の義務として立ち会って声をかけたら、いつもの不機嫌そうな無表情をさらに無念そうで憂鬱そうな、落胆と嫌悪のひと睨みで返されたのには、いささか気分を害した。

本人いわく、「夢見がとても悪かった。」せい。…らしい。

いつもなら定期治療明けにはすぐさま数多（あまた）いる助手たちに連絡をとりまくって大量の同時進行の仕事群を再開するのに、今回は、どうも、ぼんやりと虚空を見つめてばかりいて、
…様子がおかしい。

しかし検査の結果、脳波もふくめて特に病的と言えるほどの異常は認められないと。そこまで調べて、しかし言葉にできない違和感に首をかしげながらも、ちょうど副医長が当直の交代時間だとやってきたので、マリア，ディアンはやれやれと伸びをしながら自室に引き上げ、いまだに着なれない深宇宙探査船医長の堅苦しい制服を脱ぎ捨てた。身体洗浄室で洗浄器に手早く全身と髪を洗わせながら経口栄養液の缶を飲みほして簡単に食餌と給水を済ませ、自身の健康状態の数値もざっと眺めて点検だけして中央機脳に送り保存する。

そのまま送風機でからだを乾かしながら壁の操作卓をちょいちょいと押して、立体合成機でいつもの寝間着をからだの周りに創出する。

ついでにこのままこの場所で眠れるようにすれば完璧なのにと、いつもの愚痴を吹きながらもさすがにしかたなく二本の足で歩いて就眠容器に転がり込んだ。

目覚まし機能に時間を指示して、ためいきひとつついて目を瞑る。

医療者である自分は夢など視たこともない。

忙し過ぎて。



夢を、観ていた。

いや、そんなはずはない。

自分は、夢など、今まで観たこともない。

そんな、はずは...

.....



衣服は黒と決めていた。

返り血が、一番めだたぬ色だから。

幼い頃には野良犬とさげすまれ。

憎いおとなたちを倒して斃して。

いつのまにか国主と呼ばれ、僭王と罵られ。

面罵した者らはことごとく磔刑にさらして、

軽侮した近隣の王らは次々に攻め滅ぼして。

部下たちからは慕われ、

敵将からは憎まれた。

夢は大陸の統一和平よと、

景気のよい看板を掲げて。

東に西に、縦横に、みじんも残さず攻め滅ぼした。



滅した部族にひとときわ優れた智将あり。

一族の皆殺しか、我に臣従しての命乞いかと選べと脅し。

やむなく屈する悔しげなその白面のさまが興味深くまた面憎く。

戦においては先陣を命じ、
退却においては後詰めの手駒のごとくに扱ひ、
和睦においては残虐なる使者の役を押しつけ、

平時においては嫌がる顔を娯楽に、
伽を命じ、また将兵にも勦らせた。

しかし智将の叡智と働き凄まじく。

大陸の統一がなれば後はただ必ず和楽太平の世よと。
その言のみをひたすら信じて、幻影国の采配を摂る。

ついに大陸の南も落ち。
幻国にすでに敵はなく、
戦に苦しむ場所もなし。

智将高熱を発しやまいに倒れ、
重く故郷に伏す。

幻帝は怒り再三に出仕を命ず。



秋が過ぎて冬が過ぎて
幾度も死線をさまよい。
家人たちの寝ずの看病、
国人たちの納める貴葉、
やがて少しずつ病癒え、
春に花見の床上げの宴。

そこに幻帝まかりこす。

智将うろたえて弱々と立ち上がらんとす。
半年の病いえて今日ようやくに初外出の。
萎えた足でよろり立ち上がり拝跪の礼を。

その屈めた肩にむけ幻帝の剣が唐竹割に。

ざくりと。

病衣が斬れ肉が切れ血潮が飛び散って。
骨が断たれ肺が断たれ心の臓が断たれ。

「... なぜ...」

ひとこと呟いて智将は絶命す。

幻帝叫ぶ。

「なぜだと！？ なぜ、避（よ）けなかったのだッ？」

幻帝に。

仕えて仕えて四半世紀の青春の時のすべてを捧げて。
鬼と憎まれ非情と罵られても大陸の統一のためにと。
功なり、心労と自責に倒れ高熱と亡霊に魘（うな）されて。

今日は半年で初めての床上げの祝いでありましたと、
嗚咽しながら。

智将の股肱が帝を斬った。

大陸は、瓦解した。



「...は！」

目覚ましの音に、

ディアンは跳び起きた。

じぶんはだれだ。

だれだここはどこだ？！



コメント

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月14日 23:22

ぶっつけ本番ジャスト小一時間ほどで、

第一稿を、書きなぐって本日終了！

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月14日 23:24

霧木里守⇨畑楽希有（はたら句きあり）

2019年8月14日 23:23

まあ後味が悪かった人はこちらでも。

https://www.youtube.com/watch?v=-zImuW1_6Q&list=RD_-zImuW1_6Q&start_radio=1\UTF{0023}t=8

POPPOYA (piano Version)

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月15日 0:18

いやもちろん副官A君（船長セイ・ハヤミ）が
乗ってるのは知ってたけれども。

突如ちゃっかり副官Bさんこと

ヘレナ・ストール (@副医長!) 乱入。

w(°□°)w

どーなる、アイフル?!

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月15日 6:49

項目「リステラス」と直接関係ないですが、
入れ忘れていたので地震画像を追加w

(2019年08月17日) 第二夜 「 殺閥の物語 」 (第一稿)

<https://85358.diarynote.jp/201908172112293255/>

<https://85358.diarynote.jp/201908172112293255/>

<https://85358.diarynote.jp/201908172112293255/>

2019年8月17日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190817/85358_201908172112293255_1.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190817/85358_201908172112293255_2.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190817/85358_201908172112293255_3.jpg

<https://85358.diarynote.jp/201908142321092431/>

の続き。

=====



「...は！」

目覚ましの音に、ディアンは跳び起きた。

じぶんはだれだ。

だれだ、ここはどこだ？！

◇

...ぼんやりと。

いつまでも、じぶんの手のひらを視ていた。

夢のなかで。

じぶんは「幻帝」と呼ばれるその男であつたらしい。

いまのこの医療用分子裁断縫合機より重いものなど持ったこともない典型的なリストアラノ科学者階級の細くか弱い腕とは、まったく違う。

無骨な、陽に灼け、刀傷だらけの、太く、...硬く、筋肉に鎧われた、腕、で。

なんの殺意もなく、ただいつものように。

皮肉で洒落の効いた、軽い挨拶代わりにのつもりで。

ただ。

いつものように。

いつになく長らく顔を観なかった、実のところ憎からず... 愛しく、想っていさえした、臣下の。

ひょいと身軽に跳び避けて、その一瞬だけ、嫌そうな、顔をする...

そう。あの、きのう起きぬけに、従妹ソレルが自分に向けたその表情と、そっくりな...

嫌そうな、顔を。

観たくて。

ぶんと、ほんの軽い気持ちで...

振り降ろした、自慢の名刀の。

やいばが、ずぶりと、ぐしゃりと、...ずくりと。

大事な重臣の、命を、一瞬で、奪った...

その、手ごたえ。

...を。

震えながら、いつまでも、手のひらを眺めて...、ディアンは呆然としていた。

◇

「...あの... ドクター？ ドク・マリア...？ だいじょうぶですか...??」

ふいに至近距離から声をかけられて、ぎょっとして、ふり返った。

「... おまえさんか... 」

見知った顔だ。ソレルの部下のひとり、サキ・ランだ。

「... 鍵は、かけてたはずだが...？」

ようやくに動き始めた頭で、とりあえず、答えはわかりつつも、あえて定番で返す。

「すみません。もしかして非常事態かと思ったんで、無断で跳んで入りました。」

「あいかわらず便利だな。超能力者（エスパシヨノン）というやつは…」

「ソレル女史（ソリ・ソレル）の様子を見に医局に顔を出したら副医長（ヘレナ）が心配してたんですよ。当直交代の時間を過ぎてるのに、まだ連絡すらないと」

「…あッ！…」

言われて、ようやく、我に返った。

「いま何時だ!？」

「交代時間を20分ほど過ぎてます」

「うわ!？」

「ヘレナに連絡いれときますね？」

「たのむ!」

言いながら慌てて就眠容器から起き出そうとして、あやうくバランスを崩しかけた。

「…おっと、」

女性とも思えぬ長身美丈夫のサキが、素早くディアンの体を支える。

「…すまん…」

「どうしたんです？ らしくもない」

問われて、返答に窮する。

先ほどまでの、夢のなかの自分の巨大で魁偉な肉体だったつもりで、力の入れ加減を間違えた。などと…

説明しづらく。

「…どうも、…夢見が…悪くて…」

歯切れ悪く、言葉を濁す。

「…ええ？ ドクもですかあ？」

頓狂な声。

「そういえば、ソレルの調子はどうだ？」

「変なんですよ。治療槽から出て半日以上も経つのに、まだぼーっとしてて。

仕事の指示待ちの連中が矢の催促なんで、私が代行するハメになってまして… その分、私の担当の艦内業務のほうにしわ寄せが。」

「…まだ、様子がおかしいか？」

「今のドクと同じような…感じじゃないかと…」

「…そうか…」

副医長（ヘレナ）にはあと五分ほど行くとサキに連絡をとってもらって、ディアンはとにかく、急いで出勤の仕度を始めた。



(2019年08月17日) 第三夜 「 遺された者の物語 」
(第一稿)

<https://85358.diarynote.jp/201908172141208276/>

<https://85358.diarynote.jp/201908172141208276/>

<https://85358.diarynote.jp/201908172141208276/>

2019年8月17日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18 <https://85358.diarynote.jp/201908172141208276/>

<https://85358.diarynote.jp/201908172141208276/>

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190817/85358_201908172141208276_1.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190817/85358_201908172141208276_2.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190817/85358_201908172141208276_3.jpg

(承前)

◇

上司と上司の親戚で親友でもある担当主治医がほぼ同時に同じような変調をきたしてしまっ様子がおかしく。

その心配をしながらも仕事の肩代わり分に忙殺されて事態を深く考える暇もなく。

とりあえずソレル女史がいつものように、睡眠治療槽に入っていた数ヶ月のあいだにぞろぞろと伸びてしまった長い長い銀の髪をぼさりと切り落として勤務用の科学者の公式正装に着替える気になってくれて、いまだすこし反応に間延びした印象はぬぐえないものの、何とか平常どおりの業務を再開してくれたのに安心して。

サキ・ランは超過勤務を一旦うちきって私室に戻った。

「...夢見が悪いって... あの二人に限って、何でもたそんな非科学的な...??」

ぼやきながら、たっぷりの泡をたてて深宇宙探査船の上級乗組員用のそれなりには広い私室のなかに自前で持ち込んできて据え付けた移動用小個室の横寝型開放浴槽にのんびり浸かって、長い髪と全身をのんびりと丁寧に洗い、今日の疲労と弛緩を明日に持ち越さないようにと、湯あがったからだで十分な筋肉展張運動をしてから元々の本業である奉納神職舞踊の基本動作をひとつおり流して、小一時間の軽い基礎訓練の日課は、けして欠かさない。

やれやれと。再び軽く汗を流してから夜食を胃に入れて洗顔と歯磨きを済ませて、あくびをしながらのんびりと、寝床に入った。



恋人は、紅い。

紅い、赤い...

血にまみれた肉片と化して、無惨に四散した。



絶叫した。

喉も裂けよとはこのことだったかと頭の片隅でぼんやり考えていた。

テロだった。

考えれば判るはずだった。恋人は狙われていた。

衆人環視のなかで誰が紛れこんでいるとも分からぬ屋外の仮設の開放会場で、

反政府・人権復興活動の、開始を。

宣戦布告する。

そんな、... 大役を。



「時間ですよ」と、自分は言ったのだ、無情に。

「ちょっと待って!」と、エイリスは言った。

「ちょっと待って。少しだけ、十五分だけ!」

「なにを言ってるんですか？ もうみんな集まってるし、時間はむしろ押してる」

「急用が出来たんだ！」

「なにをばかな」

「急いで行って来ないと！ 時間がない！ ...すぐに、戻るから！」

「なにを言ってるんです？ もうみんな集まってるって言ってるでしょう？」

「だって！」

「どこに行って何をしようと言うんですか...

この集会よりそのほうが大事だって言うんですか？」

「...だって...！」

「わがまま言わないで。私たちが今日の準備のためにどれだけ苦労したと思うんですか？
そもそもあなたが言い出したことでしょう。我々中層市民にも、下層民の一斉蜂起を支援する、道義的な義務があると。」

「...そ... れは、... そうだけど...！」

「あなたが職務放棄すると言うなら、我々も考えますよ？」

恋人なのに。

じぶんの、恋人なのに。

...

どこへ行って何をしようと考えているのかは、薄々、気がついていた。

わたしの...

最愛の、唯一の、

ひとなのに...

他の、誰かの、あのひとの...

見送りに。

行きたいと... 言うのだ。たぶん...



「さあ。わがまま言わないで。あなたの役目を、きちんと果たして？」

「でも！...お願い！ 式次第の順番を少し変えてくれるだけでいいんだ！
アレンの宣誓を先にまわして！ その間に、すぐに行ってすぐに戻って来るから！」

「...時間を、守らない気なら、わたしの部下の参加は、見合わせ、させますよ？」

すり抜けて走りぬけて誰かの見送りに行こうとする恋人を、じぶんは全身で、さえぎった。

「さあ。時間です。」

「...恨むよ、エルさん...ッ！！」

泣き腫らした、紅い眼で。

それが、最後にじぶんに向けられた、...ことば。だった...



爆殺。



非暴力で行われるはずだった反政府抗議行動は、そのまま武装蜂起になった。

だれもが怒っていた。

もともと組織化されて革命完徹！ と叫んでいた地下勢力だけではない。
安定階級と呼ばれた中層市民も、いや、上級支配階層の人間たちでさえ。

人気者のエイリスを、無惨に爆殺した。…その罪の、一点で。

半狂乱になって、旧政府指導者層を指弾し糾弾し放逐した。
ちからづくで血統支配の塔は砕かれ、権力者たちは捕縛され、裁かれ。
短時日のうちに全ての支配体制が覆った。民衆の、自由の、…国家に。



《犠牲者》として《亡き》エイリスは称えられた。人民の英雄と。

壇上で爆殺された。

血まみれで、からだは四散した。

その、ゆえに。

亡き、英雄と…。



しかし...

革命で追われた旧支配者層らのすべてに代わって革命応援者として医療局最頂代表の地位を得た、じぶんは。

まるで旧時代の支配者層らの傲慢そのままに、特権を濫用し。

ぼろぼろに砕かれた恋人の肉体に、禁断の、再生措置を...

ひそかに、かつ公然と...

半狂乱で、施していた。

「しかし！ 脳と人格の再生が不可能な場合の肉体のみの蘇生措置は違法です！」

「法が何ですか？ 国家が転覆した今になって、何のための順法精神？！」

「そもそも無理です！ ...無茶です！」

「脳も記憶も人格まで！ すべて原状回復させます！ 私なら...ッ出来る！」

そう、言い切って。

そして...

その結果...



朝だった。

いつもの目覚まし時計が、呑気に鳴っていた...

コメント

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月17日 22:13

とりあえずもう寝ます。(??)

貼ってある画像は気にしちゃいけません。(w)

おやすみ~☆☆

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月17日 22:22

22:22 ☆

(2019年09月08日) 第四夜 「 」 (第一稿)

<https://85358.diarynote.jp/201909082036534486/>

<https://85358.diarynote.jp/201909082036534486/>

<https://85358.diarynote.jp/201909082036534486/>

2019年9月8日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18 <https://85358.diarynote.jp/201909082036534486/>

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190908/85358_201909082036534486_1.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190908/85358_201909082036534486_2.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190908/85358_201909082036534486_3.jpg

<https://85358.diarynote.jp/201908172141208276/>

<https://85358.diarynote.jp/201908172141208276/>

の続き。(- - ;)

◇

なんとかかんとか。

周辺に、微妙に怪訝な顔をされながらも、サキ・ランは、少なくとも表面上は、常に変わらぬ平静を...しばしば八方美人！と身内からは酷評されさえする、穏健で不変で真意の読めない笑顔を、保ちつつ、過重な職務に集中しようと、...努力してはいた。

ともすれば、思考は泥沼の悪夢のなかに、引き戻されようとする...

「...おい！」

案の定、聴きなれた、苛苛した声が、邪魔をしに来た。

「おい！」

「...なに？」

「なにかが色々、すご〜く、変だと。あたしは思うんだが？」

「なにかが色々。とはまた、...具体的には？」

韜晦してみるが、釣られる相手ではない。

「誤魔化すな。あんたが気がついてないはずはないだろう？」

「買いかぶっていただきまして...」

「おい？」

サキは「最近老眼で...」と冗談めかして愛用している細い銀のふちの超旧式な硬化ガラス製の薄い光学眼鏡をはずして、やれやれと、疲れた眼をこすった。

「ソレル女史とドク・マリアは、たしかにここ数日、ものすご〜く、変だねえ？」

「今朝から、あんたもだろう？」

「...いちいち気がつかなくていいのに...」

「あん？」

「他には、誰と誰に気づいた？」

「...ラルブと、オロ。ヘレナも昨日の仮眠からだろ？ 今朝はアサトと、ミドルと、エドと、オーバと...？」

指折り数えるようにそらんじていく人数の多さに、サキはげんなりと、頭を抱えた。

「やっぱりか...」

「他にもいたか？」

「いや、私の観察結果と一致。」

「じゃあいいだろ」

「多すぎる！」

「だな？」

会話の相手である、サキ・ランの相方（と自称している）ジースト星系人、レイズは、青い髪をかきあげながら、金色の瞳をすがめた。

「なんなんだよ？ これだけ人数揃えて、いきなりみんな【夢見が悪い】つつうのは...」

「空調食糧飲料に投与薬剤に電波音波電磁波、気波に霊波。疑わしいと思える要因は一応全部、調査はさせたんだけど、」

「やっぱシゴト速ええな」

「今のところ、特に怪しい状況変化はなし。」

「ふ〜ん...」

レイは腕組みして唸った。

「で、明日はもっと、増えてそうな気がしないか？」

「するねえ...」

サキも邪魔な前髪をかきあげながら、苛苛と呟いた。

これじゃ、仕事にならない...。

◇

「...ちょっと！ レイ!？」

お茶（ティレイカ）でも淹れて一服しようと作業画面を仮保存して立ち上がったサキ・ランに片手を伸ばして、ひょいと軽く担ぎ上げた長身大柄の相棒に、それなりに地球人女性としては大柄であるはずのサキは慌てて、もがきながら抗議した。

「どうせあんたも『眠るのが怖いわ～★』とかいって、徹夜で仕事しようかって組だろう？」

「...も?...」

引っかかったので、肩の上で暴れるのを一旦停めて聞き返す。

「ソレル女史もヘレナもドク・マリアも他の連中も、判で押したようにそー言ってたんで...、まとめて昏倒させてきた」

「...おたくねえ...」

サキは肩の上で脱力して呆れる。

「脳波記録を診るかぎりじゃ、悪夢とやらで魘されてるとかの間も、一応、からだは休めてるんだぜ？」

「それは確認したけど...」

「とりあえず寝とけ。さっきから明らかに、作業効率が下がってたぜ？」

「...それは、そうなんだけど...」

眠れない。のだ...

「寝かしつけてやるから？」

どさりと、寢床に放り降ろされて、サキ・ランは慌てた。

「...レイいいッ？」

この同性の（はずの）友人は、時々だが、思い出したように性的な干渉を仕掛けて来る。

本人は、サキのことを愛していると、言う。

...友人。だとしか、想ってはいない。のだが...

「...あッ！」

いきなり、脳内に、快楽を... 性的快感の、刺激を...

打ちこまれて、サキは揺れた。

「眠りたいんだろ？」

「...やめろってえ...」

気波技術者（エスパッション）の多いジースト星系出身者のなかでもとりわけ超絶級と称賛されるほどの高い能力を誇る《微細念動力》もちのレイは、直接、サキの脳を弄ることができる。

「...ッ！！」

悔しければ抵抗してみろとかいつも笑いながら嘯くが、本来、サキは快楽には流される性格だ。貞操観念というほどのこだわりも、ない。

「...ッ！...ッ！？...ッ！！！！」

物理的には、同性の、大事な親しい友人から、ただゆるく...抱きしめられて。

体温と安心感だけを、与えられながら...

脳に。直接。

「.....アッ！.....アアあああッ！...?!」

絶頂感を。

たたきこまれて...

あられもなく、揺れて...

叫んで。



まもなく、サキは、はずむ息をおさえるようにしながら...

すうと。

寝入った。

「...寝てる時だけは、可愛いんだけどな〜...」

つれない恋人？ の横顔を眺めながらレイも傍らでごろりと転がり、目を瞑る。

明日の朝、もう一度、いたぶって、遊んでやろう.....。



...暗い昏い...

黄昏色の...

閉ざされた、城塞で。

上司だった。ほかの相手に惚れていた。
心の底から、わき目もふらずに、我が身もなげうつほどに...
惚れ抜いていた。

ただ、後ろから、見守るしかなかった。

できれば、幸せになってほしかった。
気の毒な、恋をしていた...

(...なら、なぜ、俺にしない?)
時折、激発して告白しそうには...なった。

言えなかった。

冷たい眼が。

自分を斬り捨てるのではないかと、

怖くて...

言えなくて。

想い人を喪って。
観るも無残に。
取り乱し、やつれて、病んで、心を失って...

死んだ。

後悔した。後追い自殺をするほどには。

なぜ。

なぜ。言わなかった?

なぜ。

どうして、引き留めて、振り向かせて...

幸せに、して、やることが...ッ!??????



「………… レイツ？ レイ、どうした？ レイツ？」

揺り起こされた。

「………… ッ？！！！！」

跳び起きた。

「…レイ………… ???」

「………… くっそ！ これかよ………… ッ！ ???」

レイは、唸った。両手に顔を埋め、

…哭きながら…

サキは了解した。ただ肩を抱いて哭き止むのを待つしかなかった。



その日。

ついに全艦に病は広がり。

まともに職務に就ける精神状態の者は...

無かった。

コメント

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年9月8日 21:10

来週に？

続く～☆

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年9月15日 21:09

「...違う...

私が、

探しているのは...ッ！！」

第五夜。 「歌者と戦士の物語」。 (仮題)

<https://85358.diarynote.jp/201909152108356458/>

<https://85358.diarynote.jp/201909152108356458/>

2019年9月15日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18

<https://85358.diarynote.jp/201909082036534486/>

の続き。



彼女も夢を視ていた。

遠く離れた辺境探査艦内で、親しい人たちの間で何やらささやかだが奇妙な異変が起きている、らしい、ということだけは他の知人の乗組員たちから、そこはかとなく仄聞していた。

肝心の一番親しい仲間たちときたら、いつものごとく、例によって、...だ。

「心配かけたくなかった」とでも言い訳をするつもりだろう。

当たり障りのない日常の連絡報告ごとしか、通信を、寄越さない...

遠く離れた艦艇に、自分も追いつく夢を視た。

もちろん自分は科学者ではない。乗っても艦内で担える任務はない。

こちらに自分の役割はある。ソレル女史の留守を守り、有り余る資産と人財を管理し、後継者たちを育て、国際間・企業間などの大規模なトラブルの仲裁に入り、名代として会議や行事にも参加し、親善親睦を図り...

けて、置いて行かれたわけではない。役割が、別だったのだ。それだけだ...

けれど淋しかった。ずっと寂しかった。いつもいつも、日々に、日ごとに、

虚しさばかりが募っていった...



ふと気づくと、夢のなかで自分は筋骨隆々たる流浪の戦士だった。
傭兵というやつだ。

まるで若い人たちの好む迎夢の世界のようだと、くすりと笑った。
そこまではエリーも（これは夢ね？）と...、自覚していた。



自分は戦士だった。
恋人は、吟遊詩人だった。

美しく、儂く、薄幸で、苦勞して...
傷ついて。

自分が護ってやりたいと思った。守れると、思いこんでた。

傷つけた。

そんなつもりでは... なかった。

恋人は逃げた。うろたえる自分から。

すぐに戻ると思って待った。動けばすれ違いになってしまうと。

戻って、来なかった...

待って、待って、待った。

それから、追った。

追って、探して、追い求めて、

...恋、焦がれて。

再会できたら、再会できさえしたら。

どんなことをしても詫びようと。跪いて、赦しを請おうと。

追って、追って...

探し、求めて...

そして。



冷たい屍を、自分は見つけた。

恋人は、自分を、待っていたのに...

すぐ、追ってくるはずと、すぐ、近くで...

待って、いたのに。



追うことをためらった、面倒がった。

自分を、待って。

恋人は、自分のいた、すぐそばで。

冷たい冷たい、骨に...

骨に、なっていた。



彼女... エリザヴェッタは、慟哭しながら撥ね起きた。

自分は... また！

同じ、失敗を...！

しようとしていた、のでは...ッ??



跳ね起きて、即、願望を。

行動に、移していた...

(2019年09月15日) 第六夜 「転生課題の物語」 (仮題)

<https://85358.diarynote.jp/201909152147439651/>

<https://85358.diarynote.jp/201909152147439651/>

2019年9月15日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18

(承前)

◇

「報告は、以上です。... あえて文学的な言い回しをするなら...
状況は、絶望的。という感じですね？」

報告発表用の光板の前で語っていたリール・ジュンナールは少しばかり疲れた貌で、
肩をすくめておどけてそう言った。

昨日は終日緊急対応に追われて、今日も未明になってようやく、艦内の主要職分の者が
集まって臨時の会議が持てた。

日に日に、いや夜ごとに、悪夢に魘され続ける者たちの症状は悪化していく。

かろうじて制服に着替えて出勤しては来たものの、間断なく嗚咽をこらえ、落涙し、とりとめもなく泣き崩れてしまって、とてもではないがまともに業務がこなせる状態ではない者たち。

それぐらいならまだマシなほうで、部屋から出て来ず、迎えに行くと、寝間着のまま茫然として、滂沱の涙とともに全てを失念している者。

激しく泣き叫び、見境なく床や壁を叩いて己を呪い、あるいは、誰かを恨み憎んで、喚きちらし狂乱している者。

虚脱状態に陥り、なにもかも眼にも耳にも入っていない様子の者。

酷いになると、発見された時には、自殺未遂で危篤。という有り様。

通常業務どころではなく、かろうじて動けてはいる者たちで励まし合って、手のつけようのない状態の他の者たちの無事を確かめ、安全を確保し、危なげな者は薬剤で強制的に麻痺させて、冷凍治療槽に放り込んでまわるしかなかった。

科学的分析情報の記録報告の義務を担う責任者であるサキ・ランとジャーナールは、手分けしてその他すべての人々の業務分の、とりあえず記録と送信だけは死守しようと走り回ったので、肉体的にも疲労困憊していた。

ソレル女史は今も少し心もとなさげに放心している。会議の議長だというのに。ドク・マリアはそんな女史を変な風に意識していて、観るからに挙動不審だ。

副医長のヘレナはひっきりなしに鼻をすすり、ともすれば泣き崩れそうになる自分を必死で叱咤激励して、医療者だという職務意識にすがって、かろうじて正気を保っている感じ。

冷静沈着な皮肉屋をもって鳴る老練なダーナー艦長でさえ、悪夢を恐れて幾晩もまともに眠れなかったのだろう充血した眼をして、肩を落とし、溜息をついている。

戦士として鍛え上げている不動の精神力の持ち主のレイだけが、比較的早く己を取り戻

した...と、サキ・ランは観ていた。

ただ、何故なのか、やたらと、いつも以上に、サキに貼り着き、追いまわし、構いたがる
ところだけが、閉口していたが...

「動ける奴が、結局、何人いるって？」

そのレイが、鬱陶しそうな顔で、伸びすぎた青い前髪をかき上げながら、訊ね返した。

「ほぼ、おおむね、今この部屋に集まって人数だけで... 全部？」

ジューンアールがまた肩をすくめながら軽さを装ってそう答える。

ほぼ、二十人にも満たない。

全艦数千人の乗員がいるはずの中で、...だ。

「運行停止と非常用回路の起動は完了している。」

ダーナー艦長が静かに追加した。

「事態が好転するまで一旦待機するのか、即刻回頭して最寄りの補給基地まで二ヶ月かけ
て戻るのか、はたまた、... 御指示を頂けませんかな？ 女史？」

「...あ、ええ... そうですね...」

そんな有り様など今まで誰も見たことが無かったほどにぼんやりと放心気味の様子で、
深宇宙探査艦隊の発起人であり出資者であり全責任者でもあるソレル女史は、曖昧な相
槌を打った。

「...サキ。あなたの、意見は？」

「決めかねますね」

比較的立ち直りが速かった組、の筆頭に入るサキ・ランは肩をすくめた。

「原因も状況も解らなすぎる。かといって、動かずに様子を見ていたら好転するという保
証もない。」

「そうですね...」

ソレル女史がぼんやりと、ごくぼんやりと...

なげやりに、相槌を打つ。

◇

「...あ？ をい？ ...ちょっと待てー！ー！ー！ー！」

突然、虚空を睨んで、レイが叫んだ。

「なに？」

サキがびっくりして訊ねる。

「エリーが！」

「え？」

「跳ぶ気かよ！ アホかッ？」

「ええ？...えええええ！ 無理！ エリー！ 無理！！！！！」

超弩級・超のつく超能力者、と呼ばれる二人組が、宙を睨んで叫んだり騒いだりする姿は比較的見慣れている人たちは、何事かと驚きながらも、質問している場合でもなさそうだと、解説がなされるのを待った。

「エリー...ッ！！！！！」

サキの悲痛な絶叫から、ただならない事態だということだけは判る。

「行ってくる！ 捕まえて、跳ばすから、アンタ受け取れ！」

「無理だ！ 間に合わないッ！！！」

叫び。

(2019年09月15日) (続き)

<https://85358.diarynote.jp/201909152223494052/>

<https://85358.diarynote.jp/201909152223494052/>

2019年9月15日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18

(続き)

◇

突然。

ぐにゃりと。

空間が、歪んで...

人が、二人、墜ちてきた...

どさり。どさり。

「おう。あいててて...」

「痛たたた...??? ...あ! 女史はッ?」

「エリー、無事?!」

慌てたサキが声をかけるが、エリーはそれどころではない。

「女史はッ？」

「...私なら、ここにいますが...」

何もなかったはずの空間から突然落下してきた二人のうちの一人、いくらか歳を重ねたとはいえ未だに「宇宙一の美女」の名声を一手に引き受けるエリザヴェッタ・アリス・ドンナ＝レニエータ姫が、打ち付けてすりむいた膝などどうでもよさげに、寝乱れた髪に室内着のまま、がぼりと立ち上がり、よろよろと必死で奔った。

「女史ッ！...あぁ、良かった、無事だった！」

「...無事ですが...」困惑して、呟く、上司。

うずくまって泣き出した長年の腹心の部下の取り乱しように、元から人間関係が苦手な女史は対応しかねているのが、見るからにありありだ。

「生きてたんですね...！」

レイが厭そう～に顔をしかめて、サキを肩で小突いた。

「...おい。もしや、この悪夢現象って... この艦内だけじゃないのか...？」

「...それあまり考えたくないな...」

ぼそぼそと語り合う友人たちの声など耳にも入っていない様子で、エリーは安堵のあまりか、床に突っ伏して泣き出した。

「エリー...。泣かないで...」

観ていた周囲が驚いた。

他人の皮膚と接触することを極端に嫌がるソレル女史が、非力な細い腕で豊満な肢体を誇る相手をなんとか引き起こし、おそろおそろ、抱きしめたのだ。

「だいじょうぶです... 私は、ここにいますよ...？」

「...女史が、死んでしまった夢を視たんです！」

いえ、正確に言うと女史ではなかったかもしれないんですけど...
だって夢でしたから...!

もしや、万が一、予知夢か正夢じゃないかと思ってッ...!」

「...だからって、この距離を、念動力最低等級しかないアンタが、いきなり跳躍するかよ...ッ??」

レイが呆れて叫んだ。

「死んでたぞッ!? 普通!?!」

「...通りすがりまして、何よりでございましたな...」

宙から落ちてきたもう一人、この場に居合わせた者の誰もが知らない顔だった人物が、膝のチリをはたく動作で立ち上がりながら、もったいをつけて、そうのたまった。

◇

「...で? あんたは?」

うさんくさげに、レイが訊ねた。

「...救けてくださって、ありがとうございました。」

慌てたエリーがソレル女史の細い体を惜しそうに離しながら、慌てて割って入った。

「わたくしはエリザヴェッタ・アリスと申しますわ。貴方のお名前をお伺いしてもよろしいですかしら?」

「おおよそ尋ねて下さいました！」

とたんにソレル女史の銀の細い眉毛が、嫌そうに下がった。

この場にいるはずのないある人物に、言動と雰囲気、そっくりだったので…

細身で短軀の見慣れない風体の男性は、大仰に、地球の旧時代の中世欧州の騎士のように、両腕を上げたり曲げたりしながらゆったりと頭を下げた。

(2019年09月16日) (続きの続き。)

<https://85358.diarynote.jp/201909162006056669/>

<https://85358.diarynote.jp/201909162006056669/>

2019年9月16日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18

<https://85358.diarynote.jp/201909152223494052/>

の、続き。



「...救けてくださって、ありがとうございました。」

慌てたエリーがソレル女史の細い体を惜しそうに離しながら、慌てて割って入った。

「わたくしはエリザヴェッタ・アリスと申しますわ。貴方のお名前をお伺いしてもよろしいですかしら？」

「おお、よくぞ尋ねて下さいました！」

とたんにソレル女史の銀の細い眉毛が、嫌そうに下がった。

この場にいるはずのない、皆がよく知る他のある人物に、言動と雰囲気が、そっくりだったので...

細身で短軀の見慣れない風体の男性は、大仰に、地球の旧時代の中世欧州の騎士のように、両腕を上げたり曲げたりしながらゆったりと頭を下げた。

「それがしはジョゼアール・エリア＝エリ＝アモンと申す者。どうぞジョゼとお呼びくださいますかな？ お目にかかれて大変光栄に存じますぞ、ドンナ・レニエータ姫！」

「...エリーでけっこうですわ...」

「で？ だから、アンタだれ？ 何なんだよ？」

同僚の社交儀礼努力なぞは全部すっ飛ばして、レイがもう一度、要点だけを尋ねた。

「いまアンタこいつが無茶な空間跳躍して四散しかけたところを、宙の宙で受け止めて包围して自分と一緒にまとめてここまで空間転移をしておいたよな？」

あんな離れ業、残念ながらこの《破壊成功者（シスターナ）》レイズ様でも無理だぜ？

そんな物凄い超絶能力者が実在するなんて、噂すら聞いたことがない。」

「これはしたり。」

ジョゼと呼んでくれと申告した男は、ふたたびおどけたように、左手を胸に当て、右腕を斜め後ろに泳がせる... ジースト人のレイは知らなかったが、エリーの故郷である地球西洋の古典的な... お辞儀をしてから、しゃあしゃあと述べた。

「それがしは歴史遡行者。過去を改編する者。

はるか未来より来たりし時空間犯罪者... とでも申せば、通じますかな？

この時代の三次元世界の皆様がたにも... ??」

「はぁ？」

レイを筆頭として、幾人かの者は、まったく判りませんねと、あからさまに顔をしかめた。

◇

「...では、航時能力者ではない、と？」

ささやかながら時間跳躍の能力を持つサキが、かろうじて話の接ぎ穂を見つけて突っ込んだ。

「いやはや、残念ながら。」

「そうですか。」

「それゆえ生憎、時間があまり赦されてはいないのですよ、違法航時機盗用犯罪者の身もなれば」

「...はあ、」

意味が不明だ。

「それゆえ、お伝えしたき事柄どもは、すべてこちらに納めてありますぞ！」

「なんでしょう？」

未来より来たとか自称する割には言葉遣いが大時代的なリスタルラーナ古謡語だったりするわりには、情報媒体だけはきちんと当代に合わせてくれている？
らしいところが、何だか更に怪しい。

「カエンジュの件でございますよ！」

「なんだって？」

「この時代の、こちらの世界では、《苛怨樹（カエンジュ）》と呼ばれておりませなんだか？」

「？ ...ああ、オリセルラ・レイジアのことですね？」

意外なことに、ソレル女史が食いついた。

「しかり！... しかり！」

ジョゼアールは、もみ手をしながら嬉しそうにうんうんと頷いた。

「なんですか？」エリーが首をかしげる。

「くだんのあれですか？ 例の、《目的物件》。」
心当たりがあったらしく、ダーナー艦長が問いかける。

「それです。」
ソレル女史が、先ほどまでの虚脱状態が嘘だったかのように、いつものしっかりとした鉄仮面のごとき無表情をとりもどして冷淡にうなずいた。

「我が艦の本来の探査目的である、超常能力者異常発生と消滅の歴史的周波数と同調して星間近傍を駆け抜ける、あの…」

「オリザドダレイド！」

レイがジースト語で該当する単語を叫んだ。

「それについての詳しい情報と、攻略方法についてでございます。」
うんうんとジョゼが相槌を打つ。

「なぜ、あなたが？」

「灰色姫と呼ばれたサワラソウエン様の苦悩を知る者だからでございますよ！」

は！ と、ソレル女史のからだがかたまった。

「女史？」

「…なぜ… あなたがそれを…」

「縁者でございますので。」

またもやもったいつけて、時間遡行者は女性科学者に礼をした。

「もっとも、この場に居合わせた皆様は、すべからく因果因縁の綾織りの結び目のかたがた。

…おっと！」

きょろり。と、大きな両眼を動かして、ジョゼは飛びあがった。

「時間がないッ！」

どこかの白兔のようなことを呟いて、瞬間、彼は空間跳躍して...

消えた。



「ちょっと！ 待ちなさいよ、この航時宙機ドロボウッ！」

どこかの空間から、そんな声が...

響いた。

(完全に草稿)

(完全に草稿)

(完全に草稿)

(2019年08月12日) (草稿)

<https://85358.diarynote.jp/201908121741295937/>

<https://85358.diarynote.jp/201908121741295937/>

2019年8月12日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18 <https://85358.diarynote.jp/201908121741295937/>

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190812/85358_201908121741295937_1.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190812/85358_201908121741295937_2.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190812/85358_201908121741295937_3.jpg

夢を視ていた。

深い深い、魂の奥のおくの底のそのの、澱のしたの淀みのさらにおくの

深い深い、ところの、いやな...

記憶の夢だ。

いつもの夢だ。

いや、そうだっただろうか？

一瞬だけ、いまの理性がちらりと目覚めておもう。

自分は、夢などいままで、視たことがあったのだろうか？

夢だ...

灰色、の。



「おや、起きたのか？ 久しぶりだね、ソレル。」

目を覚ますと、ベッドサイドには人がいた。

逢いたかった、あの人ではない。

見慣れた、人だ。

「ディアン...」

ソレルは、同じマリア一族のなかでは地球人風の綽名「ドクター」と呼ばれる色違いの遺伝子を持って生まれた従姉妹の名を、億劫げに...呼んだ。

コメント

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月12日 17:45

しばしば「女史」とも呼ばれるマリア＝ソレルは、同じマリア姓一族のなかでは地球人風の綽名「ドクター」で呼ばれる、色違いの遺伝子を持って生まれた相似形反転遺伝子をもつ幼馴染でもある従姉妹のその名を、億劫げに...呼んだ。

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月12日 17:46

...そこかーーーーっ！！（--#）！！

伏兵！「毒（ドクター）まりあ」様 ⇄ 【アルマンディン兄様】ッ！...！？

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月12日 17:48

「史実」と違って、「船」に乗せちゃう。

「おいてけぼり」のエリーさんは、ひとりで孤独な、夢を視る...

（そしてサキ@エルさんは、判断ミスを知る。）

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月12日 18:47

066

8

066

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月12日 19:32

...完全に「出番が無かった」はずの...如是さんが!

むりやり乱入!? ッ!! (^◆^;)!!

いや、そー来るか??

それじゃ完全に「話の雰囲気」が、変わって...!

コメディになっちゃうぞ?? w (^◇^;) w... ☆

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月12日 19:34

どうも...『今生の私のミッション』って...

「御都合主義バンザイ！【前世記憶】改竄（過去ログ改変）プロジェクト！」

らしいな...?? w (^ ^ ;) w...★

(いいけどさー~~~~っ★)

「オリザドダレイド。(苛怨樹)」

「オリザドダレイド。(苛怨樹)」

「?... ああ、オリセルラ・レイジアのことですね？」

「そっちの言葉で何と言うかは知らん」

「いや合ってるよ。それでオッケー」

☆ 「さあ、長い永い、一瞬の旅の始まりだ！」

☆ 「さあ、長い永い、一瞬の旅の始まりだ！」

(いちおう設定資料とか。)

(いちおう設定資料とか。)

(いちおう設定資料とか。)

【★ぶっつけキャラ設定ッ！】 (2019年8月3日時点)
(★名前のみ！)

<https://85358.diarynote.jp/201908121622451262/>

<https://85358.diarynote.jp/201908121622451262/>

2019年8月12日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18 <https://85358.diarynote.jp/201908121622451262/>

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190812/85358_201908121622451262_1.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190812/85358_201908121622451262_2.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190812/85358_201908121622451262_3.jpg

https://www.youtube.com/watch?v=2Rxt_kbIpIO

Dark Fantasy Music – Wolf Elves | Magical, Mysterious, Enchanting

(承前) さてと...！

(参照)

<https://85358.diarynote.jp/201708100628041533>

[../.../book/107093/read](http://.../book/107093/read)

=====

【★ぶっつけキャラ設定ッ！】

(2019年8月3日時点) (★名前のみ！)

アジャルディーン

ゾルダス
ドレドラウド
アミルディソレルダス姫

アワディ
オメガアルディ
ソレルドノウト
アウワットコメルデイン

オウエンディア
サワラソウェン (灰色姫)
ワグノーオエルディ

★高次元組★

アルヴォレイド
ヴァレイス

=====

【★ぶっつけザックリ粗筋&プロット!】(これから考える...★)

(3部構成?) (むり?)

=====

★設定&あらすじ★ (自分用まとめ)

☆ ソレル女史? は長い夢を視ている。(灰色姫)

☆ サキ達は辺境探査船に乗ってる。(史実? 無視で女史も乗ってる?)

☆ 未来からイロニナズが逆行して来る?

☆ どっかから? 【禍炎呪】(苛怨樹)のネタがくる。

☆ 探査船の乗組員? が、それぞれ「嫌な夢」を視ている。(大切な誰かが死ぬ/奪われ

る、夢)

☆ カエンジュ見つける。

☆ 未来? から「上級修理人」来る。

☆「さあ、長い永い、一瞬の旅の始まりだ！」

de ende。

=====

...どうやってまとめるんだよ... < (~~;) >★

コメント

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月12日 16:36

「オリザドダレイド。(苛怨樹)」

「?... ああ、オリセルラ・レイジアのことですね？」

「そっちの言葉で何と言うかは知らん」

「いや合ってるよ。それでオッケー」

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月12日 16:39

...ちょっと頭かたまるまで、先に【ビシ】殺ってくる～☆

◆登場人物◆

<https://85358.diarynote.jp/201908132350289874/>

=====

◆登場人物◆

サワラソウェン（灰色姫）：灰色王国の養女姫。元・巫女長候補。

アミルディソレルダス姫：王家に生まれた巫女姫。（なかのひとエルさん）

アジャルディーン：灰色姫の夫。王婿。

ソルダス：灰色姫の片恋相手。王宮衛視長。（身分は低い）。

タエラ：サワラソウェンとアジャルディーンの実子。そうとは知らずにソルダスが世話をする。

ドレドラウド：新興国の狂帝。

=====

(2019年8月12日) 『ざっくりプロット』策定!

<https://85358.diarynote.jp/201908121942062129/>

<https://85358.diarynote.jp/201908121942062129/>

2019年8月12日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18 <https://85358.diarynote.jp/201908121942062129/>

<https://85358.diarynote.jp/201908121942062129/>

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190812/85358_201908121942062129_1.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190812/85358_201908121942062129_2.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190812/85358_201908121942062129_3.jpg

<https://www.youtube.com/watch?v=Jsv6ppV3nNg>

Best Cello Cover Of Popular Songs 2019 - Cello Instrumental 2019 | Music For Relaxing
- Work - Study

(承前3項)

◇ 彷徨える外宇宙船の乗組員が、それぞれ頭痛や不安障害を隠しながら、
『おかしな夢』を視ている。

◇ 『展覧会の絵』的に、悪夢? (前世記憶) のオムニバス。

◇ 漂流する自称タイムマシンの《イロニナズ》男を拾う。(如是さん)

◇ 如是さん捕まえに来た白兎さん (超時空警察) 乱入。

◇ リールが話をまとめて、カエンジュ搜索の旅になる。

◇ 各員「前世記憶」を掘り返して悶々としながら航路は進む。

◇ サキ（エルさん）が記憶を掘り返している時、さらに「超」な連中が来る。

◇ カエンジュ掃討。

◇ 結局ソレル博士は現世に戻り、サキとレイが行方不明。ってことになって完。

=====

おし！（^w^）！

「前世ねたスベオベ（?）」で、明るく？ まとまったッ！！

コメント

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月12日 19:43

んで～★

それぞれの小ネタ（前世ネタ）が、暗くて長い～ッッ！！

(2019年08月12日) (ざっくり 小ネタまとめ)

<https://85358.diarynote.jp/201908122028274221/>

<https://85358.diarynote.jp/201908122028274221/>

2019年8月12日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18 <https://85358.diarynote.jp/201908122028274221/>

(承前)

◆【現世】(船キャラ) ⇔ 【前世】(いちばん苦い記憶?)

◇ソレル ⇔ 灰色姫

◇ディアン ⇔ 墮天烙?

◇サキ ⇔ エルさん?

◇レイ ⇔ ?? ⇒ 「今生」か??

◇エリーさん ⇔ (船に、いない??)

...

◇ケイ ⇔ (船にいない?)

◇セイ ⇔ 副官A君??

◇?? ⇔ 副官B君??

◇?? ⇔ 黒闇さん??

...

◇ リール（前世記憶...なし...?）

=====

（絡まってるのはメインの5人だけで良くないかー??）

（てか、十分すぎるッ!!）

コメント

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月12日 20:29

「お休み時計」が鳴りましたので、詐欺業終了。

現世の家事やって、早目に？寝まーす☆

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月12日 20:36

...あなるほど？ そう来ましたか...？

アル兄 ⇔ 『殺伐』 エピ。(- - ;)

(時間が足りねえよッ！)

アジャルディーン
ゾルダス
ドレドラウド
アミルディソレルダス姫

アワディ
オメガアルディ
ソレルドノウト
アウワットコメルディン

オウエンディア
サワラソウエン (灰色姫)
ワグノーオエルディ

★高次元組★

アルヴォレイド
ヴァレイス

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月12日 20:37

黒闇さんは混ざりたいだろう？

んで、アイリス（ケイ）は結局、自立（？）した？ ってことね...??

(2019年8月15日) 「サキは私の転生未来(ハイアーセルフ)じゃなかった！」わけだから...

<https://85358.diarynote.jp/201908151418149619/>

<https://85358.diarynote.jp/201908151418149619/>

2019年8月15日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18 <https://85358.diarynote.jp/201908151418149619/>

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190815/85358_201908151418149619_1.jpg

<https://www.youtube.com/watch?v=jO01kemz1kY>

ネイティブアメリカンフルート

参照コメント欄⇒ <https://85358.diarynote.jp/201908142321092431/>

ていせーいい...!!!

セイ・ハマミとヘレナ・ストゥールは、

サキ組(エルさんチーム)なんだから。

「私」の副官のAさんBさんとは別人じゃん!

...ということ、先ほど、午睡の悪夢(?)のなかで、

がつつり指摘されてしまいました...www

あっそうか! そういえばそうだ!

「サキは私の転生未来（ハイアーセルフ）じゃなかった！」わけだから...

副官Bさん = ミズ・クラレン！

副官Aくん = エスパッション号の艦長！（？）だッ？

w (^◇^ ;) w""""""

コメント

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月15日 19:27

...だからなにゆえ「偶然」シンクロするのか...www

=====

霧木里守≡畑楽希有（はたらけきあり）2017年9月24日 7:36

...エスパッション・シリーズで...

いつもずっとサキやレイがソレル女史のことを、

「いまいちナニ考えてるのか、判らない人だ...」と、思っているのは、

知っていたのですが...

ようやく判りましたよ...(^^;)...★

ソレル女史=私、なら...

...イマ私が感じているような隔絶感を、感じて

黙っていたワケですね...★

...w (^ ■ ^ ;) w...。

んで？

ドク・マリアって、もしかしてアルマンディン兄さま？

ミズ・クラレンは...副官Bさんじゃないよな...。誰だ...??

<https://85358.diarynote.jp/201709231538594746/>

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月15日 21:58

0

6 6

8 8 8

6

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月15日 22:09

0

6 6

8 8 8... ☆ (^八^) ☆

(2019年08月31日) 清瀬律子⇔エイリスの航跡を追って、
生身のまま時間遡行した「狼さん」。

<https://85358.diarynote.jp/201908310959092121/>

<https://85358.diarynote.jp/201908310959092121/>

2019年8月31日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18 <https://85358.diarynote.jp/201908310959092121/>

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190831/85358_201908310959092121_1.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190831/85358_201908310959092121_2.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190831/85358_201908310959092121_3.jpg

<https://www.youtube.com/watch?v=lHjnEcVQL4o>

Musique Épique Combat | Musique Héroïque Guerre | Musique Fantastique Cinématique
Epic

番組の途中? ですが...w

結局?

☆ エイリス:

(ほぼ幽体(死後)の状態、帰天せずにムリヤリ時間遡行。して、

その先で「死亡自認」(出頭) ⇒ 転生管理委員会が強烈に引き受け拒否る。

⇒ 「水の縁者ゆえ」というタイムパラドックス理論? で「水」が器を用意。

⇒清峰 鋭。「転生不可」印を視て、面白がって半女神が半寿命を貸与。

☆ 清瀬律子⇔エイリスの航跡を追って、生身のまま時間遡行した「狼さん」。

その時代にそぐわない長寿命（400年？）でうろうろと地表を探し回って、「メトセラ」伝説を作る。w（^へ^；）w

⇒「肉体寿命」が尽きた死後、やはり転生管理委員会が引き受けを嫌がる。

⇒「罰分霊」処分後、タイムパラドックス・パラレル転生の永久輪環に陥る。

⇒気づいたリール・ジャーナルが探し回った挙句に「清瀬律子」に固着。

⇒時間軸内での追っかけ転生。が始まる。

...ってこと？

らしいのか...☆ w（-”-；）w（ややこしい！）

コメント

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月31日 11:36

0 6 7 1

6 6 0

「復顔」の技術すげえ！

⇒ <https://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/gallery/013000491/>

> 7人の「イギリス人」の顔

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月31日 15:41

0 6 7

1 6 7 7 ☆

(参考「旧設定」資料ファイル)

(参考「旧設定」資料ファイル)

リステラス星圏史略古資料ファイル 4 - 0 - X - 苛怨樹魂 - 《灰色姫》と戦士《黒百合》 <https://puboo.jp/book/107093/read>

リステラス星圏史略 古資料ファイル 7 - 9 《魔樹》(仮題)

<https://puboo.jp/book/112802/read>

リステラス星圏史略 古資料ファイル 6 - 1 《ングサインスカ》～初期帝国の成立～
<https://puboo.jp/book/113317/read>

リステラス星圏史略 sin 資料ファイル 8 - 1 - 2 (のこされたエルの物語) (仮題)

<https://puboo.jp/book/113938/read>

他いろいろ。

(借景資料集)

(借景資料集)

(借景資料集)

(2019年09月08日) その「人工〇〇」が吸収され脳に達すると睡眠障害を引き起こす。

<https://85358.diarynote.jp/201909081222363119/>

<https://85358.diarynote.jp/201909081222363119/>

2019年9月8日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18 <https://85358.diarynote.jp/201909081222363119/>

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190908/85358_201909081222363119_1.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190908/85358_201909081222363119_2.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190908/85358_201909081222363119_3.jpg

<https://www.youtube.com/watch?v=idzW8qSsjRI>

Pirates of the Caribbean Soundtrack Compilation

(参照)

<https://85358.diarynote.jp/201909060632066641/>

https://85358.diarynote.jp/?theme_id=203

<https://85358.diarynote.jp/201909080631533820/>

ってことで、今日こそ原稿に戻るぞ！

...と、思っていたら、朝の巡回？ 作業中に先行類似ネタが... ッ☆★

w (^■^;) w

> 中津川 昴 @subaru2012 ù 1日1日前

- >
- > 【今朝、再び近未来に行ってきた！】
- >
- > 将来、またオカルト現象だと揶揄される薬害事故が起きていた。しかも解明されるまで10年もかかっている、メディアに上がるまでかなり長い間、オカルト扱いされていた事象を見てきた。
- >
- > その名も「人工〇〇」と言い塗料の中に入れて使う薬剤の一種、ごく微量で障害が
- >
- > 朝起きて、思い出せることと、思い出せないことがある。やはり未来の情報を持ってくるのはなかなか大変だ。何せ辞書にもネットにも乗っていたい人造単語なのだから。
- >
- > その「人工〇〇（半とか消とか付いていた様な..）」が肺や鼻の粘膜からコルチゾール受容体に吸収され脳に達すると睡眠障害を引き起こす
- >
- > その睡眠障害が、数時間おきに悪夢で目覚めるとあったので、レム睡眠ーノンレム睡眠の周期を乱す物質で、しかも脳内の過去記憶にアクセスして記憶の底に仕舞って置きたい嫌な記憶を増幅させるという嫌らしい脳内ホルモンを大量に作り出す様で、人の臨床試験でしか判明しなくて、しかも結果は千差万別
- >
- > 個人の情報なので結果が異なるのは仕方がないけど、いわゆるシックハウス症候群と類似しているらしい。もっと段階的にヤバイ物質だと言える。
- >
- > だから事故物件だとか気の性だとか、悪魔付きだとか霊障だとか後付けでレッテル貼りされてたけど、臨床試験で共通項が見られたのは、全員もれなく自傷行為を
- >
- > 「人工半〇〇」、ここまで思い出したけど、重要なのは名称ではなく、中身だろう。
- >
- > 10年後、やっとこの不可解な事故や霊障が、環境中に放出される化学物質の一種、環境ホルモンの一つだと判明する。おそらく数100ppb/cm³～数ppm/cm³のごく微量で発症したという治験が2030年代には残っている。
- >
- > その塗料に入れる揮発性の物質は、塗布性、速乾性、展延性、発泡性能、手触り感、光感受性、抗菌性、光分解性、耐紫外線、耐湿性、耐乾性とかのいずれかを非常に効率よく向上させたもので、瞬く間に全ての塗料添加物に入れられることになる。
- >
- > しかも発症する人とならない人の割合が3:97とかマイノリティに
- > <https://twitter.com/subaru2012/status/1170125752622186496>

↑
そこで終わり？（＾＾；）？

よかった。心配したほどは、似てなかった...w

（こりゃむしろエスパの『スランナート事件』ネタだ...w）

=====

...さてと。

涼しくなるまで、先に、単純作業やって～☆（ヲイ？）

今日中に、原稿の続きに、

戻るぞッ！ ⇒ <https://85358.diarynote.jp/201908172141208276/>

コメント

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年9月8日 17:17

...ダメだ、この時間になってもまだ+28℃ある...ツ★

暑すぎて眠れないし、風が強すぎて窓も開けられないので、

掃除はそうそうに諦めました。(ー；) ★

んでも原稿は「続きのシーン」が「視えた」ので...

あと少し涼しくなったら書ける。かな... ww

(執筆関連日記等)

(執筆関連日記等)

(執筆関連日記等)

(2019年07月30日) 今朝になって「次を書く原稿」が決まった...! と、目が覚めました♪

<https://85358.diarynote.jp/201907300615218090/>

<https://85358.diarynote.jp/201907300615218090/>

2019年7月30日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190730/85358_201907300615218090_1.jpg

あらためまして、今日は早めに戻りましたようございます。

(でも自分のツイッターカキコミ読み返してたら、結局また、
現在06:06に...★)

気温+26℃。一面に高い雲が広がる薄曇り。ほぼ無風?
室温+28℃。窓を開け開け。

きのう夏仕様にしたカーテンと寝床がなかなか快適で、たっぷり熟睡できました♪

んで。

一昨日と昨日をほぼ完全なる「夏休み!」にして、
ルーティン? PC作業を放棄してたのが結局一番、

「脳に良かった」らしくて...w(^^;)w...☆

今朝になって「次を書く原稿」が決まった...! と、目が覚めました♪

「天中殺」ほぼ明けです♪

(どうせこの後、また定例の「明けの一撃」 事変対応で無駄疲労するのは目に見えてますが...)

5月の「パブー閉店！ 宣告」で「アタマ真っ白」になってから随分おたおたしてしまいましたが。

本年のこり、あと5カ月！

...目標の、「投稿8作！」...は、もう無理？ なので下方修正...は、しなくてもいいのかな...？

「一ヶ月一作かけば、なんとかなる！」...??

...この目標策定につきましては、また後刻...☆☆

(2019年08月02日) さて！

<https://85358.diarynote.jp/201908021634425454/>

<https://85358.diarynote.jp/201908021634425454/>

2019年8月2日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18 <https://85358.diarynote.jp/201908021634425454/>

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190802/85358_201908021634425454_1.jpg

<https://www.youtube.com/watch?v=mxG8uofQ8Jw>

Kokia - Yume no Tochuu [Sub Español]

こんわです。

昼寝と漫画とツイッターと小家事の後、
PC再起動したのが15:15でした。

さて。(^ w ^)ノ

参照⇒ <https://85358.diarynote.jp/201907300615218090/>

> 「次を書く原稿」が決まった...!

> 今年のこり、あと5カ月!

> ... 目標の、「投稿8作!」... は、もう無理?

... の件につきまして...

気温=室温... + 3.2 °C...!

... じっとしてるだけで汗だらだら、思考するには最も向かない! 環境下で...w

とりあえず出来る単純作業！（【ビシ】）をやりながら...

つらつらと、勘案したいと思います...！

<https://textfield.net/contest>

> 締切8月4日・第10回「次に読みたいファンタジーコンテスト」

>

> 募集テーマ：第10回目のテーマは「宮廷/王族/継承」です。

>

> 宮廷/王族/継承の要素が入っていれば、どのような世界/時代設定のファンタジー小説でも応募可能です。ページをめくる手が止まらなくなるような、ワクワクするファンタジー小説をお待ちしています。

> ・文字数は5,000文字以上

>

> ・すでに完結している作品 並びにエブリスタ内の公式コンテスト及び他サービス等の投稿コンテストで落選した作品を、募集内容に沿うように再構成してご応募いただくことも可能です。

↑

...おや...(@@;) ...どうせ墮ちるだろうけど...

これ⇒ ../../book/123124/read

「リサイクル応募」が可能。だなぁ...w

8/8 第4回 スターツ出版文庫大賞 惜しいッ時間が足りないし、苦手分野？ だ...

> 応募サイト「ノベマ！」

? (^ ^;) 最近は、いっぱいあるなぁ...☆

=====

> 第1回ベリーズカフェ ファンタジー小説大賞

>

> ・2019年8月20日 13:00 エントリー&完結〆切

>

> ①歴史カルロマンス部門< F 大賞 1 >西洋・和風・中華など歴史的背景を舞台とした恋愛ストーリーを募集します。イケメン皇帝とウブな王女の政略結婚、ドSな騎士団長から溺愛されるストーリーなどの、ヒーローの魅力がたっぷりと描かれた、心ときめく歴史カルロマンス小説をお待ちしております。②異世界ファンタジー部門< F 大賞 2 >現代から異世界へのトリップや転生など、架空の世界を舞台としたストーリー。現世での平凡な知識を生かしてヒロインが異世界で活躍したり、等身大のヒロインが自ら運命を切り開き、恋愛の「ドキドキ」に加え異世界で活躍することで得られる「ワクワク」に重きをおいている作品を募集します。例えば、ご飯もの・悪役令嬢・スローライフなど人気設定を生かしたオリジナリティ溢れる作品をお待ちしております。

> https://www.berrys-cafe.jp/pc/gp/?gpId=10#_application

↑

...恋愛小説レーベル...。(^^;)...☆

...あ、でも「転生恋愛」モノだから、余裕でクリアしてる？ ゾッ??

>• Berry's Cafe および他文学賞に応募したことの無い作品に限ります。

(でも今回ちょっと時間が足りなそう...)

=====

8/20 第4回ツギクル小説大賞 同上。あんど、対象読者層が苦手範囲★

=====

8/30 第11回 小説野生時代新人賞

【対象】 広義のエンターテインメント小説。恋愛、ミステリ、冒険、青春、歴史、時代、ファンタジーなど、ジャンルは問いません

- ・400字詰め原稿用紙換算 200枚から400枚の長編作品。手書き原稿不可。
 - ・A4判に縦書き 40字 (E)40行。
 - ・1枚目にタイトル／著者名／原稿枚数(400字詰め原稿用紙換算)、2枚目に1200字以内のあらすじ／本名(ルビも)／著者名(ルビも)／生年月日／出身地／略歴／現住所／電話番号／メールアドレスを明記してください。
- ※タイトルとペンネームが判別しづらいケースがありますのでご注意ください。
- ・原稿には通し番号を入れてください。

・1作の応募につき、1枚の応募券（「小説野性時代」2018年12月号～2019年9月号に掲載。コピー不可）が必要です。

↑

めんどくせえ！

=====

8/31 第5回 創元ファンタジイ新人賞

●募集要項商業媒体未発表のファンタジイ長編を募集します。

枚数：40字㊦40行換算で100枚以上150枚以下。手書き不可。また、同1枚の梗概を添付してください。

締切：2019年8月31日〔消印有効〕

＞創元ファンタジイ新人賞 休止のお知らせ

本賞は当初、2014年の東京創元社創立60周年を記念した1回限りの特別な賞とする予定でした。ところが予測を大幅に上回る数のご応募をいただいたため、第2回、第3回、第4回と続けさせていただきましたが、小社の文庫創刊60周年にあたる次回（第5回。応募〆切・2019年8月31日）をもちまして休止することといたしました。

…いづこも、出版不況…（--；）…★

=====

8/31 第33回前期 ファンタジア大賞

＞第33回ファンタジア大賞では、前回に引き続き、前期・後期の2クール制を採用、投稿や自分の作品の状況がオンラインで分かるマイアカウントシステムを導入しています。また第33回では、ゲスト投稿機能を実装し、さらに参加しやすくなりました！

＞第33回前期ファンタジア大賞の締め切りは2019年8月31日です。

＞切り拓け！ キミだけの王道！

↑

こっちはヤル気まんまんだな…☆

>十代の読者を対象とした広義のエンタテインメント作品。ジャンルは不問です。日本語で書かれた未発表のオリジナル作品に限ります。

>未完の作品は選考対象外となります。

>原稿枚数は、ファンタジア文庫と同様の40字×16行で換算して200～270枚にしてください。

...ふむ... ☆ (@w@;) ... ☆

=====

8/31 第8回 アイリス少女小説大賞

...うわ☆ コピペできねえ...www

> 2019年8月31日

> 作品は未発表のものに限ります

> 42字×34行の書式で、70枚以上115枚以内（400字詰原稿用紙換算で、250枚以上400枚以内）

> <https://www.ichijinsha.co.jp/iris/contribute-2/>

↑

古巣？ の「少女小説」畑...しかも名前が「アイリス」...！！

=====

8/31 (7/1-) 第8回 角川つばさ文庫小説賞

...悪名高い？ カドカワだけは避けよう...★(--;)★

(...エブリスタとカクヨムもパスでえ...★)

=====

...を!?...w (@w@;) w... ☆

↓

9/19 第5回 アイリス NEO ファンタジー大賞

>女性向けの恋愛・ファンタジー

>特殊設定あり

>未完成問わず

>文字制限なし

>他応募不可

http://www.ichijinsha.co.jp/special/iris/neof_award5/

=====

う”～ん”... (～”～;) ... ★

アテにしていた【小説ウィングス賞】は、2016年で終了していた... ★

(単純に「持ち込み投稿」のみ受け付け。ってことかな...?)

=====

さて!

コメント

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月2日 17:41

PV マフィア @PV_MAFIA_bot

好きなことを仕事にするのは難しい

しかし

難度はエベレスト登頂レベル

ではなく

高尾山レベル

好きなことを仕事にするほど人生は甘くない

と邪魔するものは、登山未経験であり

声を聞く必要さえない

そんな声に惑わされず

最初の一步さえ踏み出せば

必ずゴールに到達する

大丈夫だ

16:46 - 2019年7月31日

https://twitter.com/PV_MAFIA_bot/status/1156712657568727040

↑

《歌いながら大地を歩く》霧樹里守 @MasakoTsuchiya2 ù 8月1日

《歌いながら大地を歩く》霧樹里守さんがPV マフィアをリツイートしました

高尾山なら、麓からジャスト一時間で軽く登れてたんですけどね。(^_^;)

さすがに商業作家デビューの道は、『裏高尾縦走』(最長距離単日完踏) くらいの難易度はあるんじゃないか...??

(未達だ w)

<https://twitter.com/MasakoTsuchiya2/status/1156730083270225920>

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月2日 17:42

0

6 6 6

2 2 0 ☆

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月2日 21:17

本日終了。(^^;)

予定時間大幅オーバー。

【ビシ】殺ってたけど、量がハンパに終わったので、トリガ貼るのは明日にします～★

(2019年08月03日) (DNA = 遺伝子 = ジーン (gene))。

<https://85358.diarynote.jp/201908032007086948/>

<https://85358.diarynote.jp/201908032007086948/>

2019年8月3日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18 <https://85358.diarynote.jp/201908032007086948/>

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190803/85358_201908032007086948_1.jpg

<https://www.youtube.com/watch?v=XJyzdbTor9k>
Ar Tonelico III - EXEC_COSMOFLIPS/. (中文字幕)

参照⇒ <https://85358.diarynote.jp/201908021634425454/>

=====

9/19 第5回 アイリス NEO ファンタジー大賞

> 女性向けの恋愛・ファンタジー

> 特殊設定あり

> 未完成問わず

> 文字制限なし

> 他応募不可

http://www.ichijinsha.co.jp/special/iris/neof_award5/

=====

...ぐるぐる先生に聴いてみよう...

↓

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%80%E8%BF%85%E7%A4%BE> 沿革

=====

株式会社一迅社 (いちじんしゃ、Ichijinsha Inc.) は、日本の出版社。

主に漫画雑誌・単行本、女性向け小説、ゲーム・アニメ関連の書籍の発行を手がける。

社名の由来は前身である所の社名の、一賽舎とスタジオ DNA から
(DNA = 遺伝子 = ジーン (gene)。いちじんしゃ→いちじんしゃ)。

=====

↑

...(@@;) ... ! ? ちょっと待て! おまいさんは、「私」か...ッ?!!

⇒ブログのタイトルが御存知【DNA】。

⇒以前一時期使ってた変名? が『脳丸ジーン』(ノーマ(る)・ジーン)

...そしてなにゆえ、「講談社じゃないとこ!」で探してるのに...

> “講談社が一迅社を完全子会社化”

...w(--;)w...★

あんど、今回「書こうと思ってる話」が、どろどろの、BL...(^^;)...☆

...会社としてはBLも扱ってる(というかLGBT特化型?)けど、
『アイリスNEO』さんは、ジャンル違いレーベル...☆

...はて。(--;)

(再度長考に入りました!)

コメント

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月4日 7:02

《歌いながら大地を歩く》霧樹里守 @MasakoTsuchiya2 ũ 12 時間 12 時間前

返信先: @hiroyuki_fukai さん

スタッフ萌え〜♡♡° +(人・▽・*)+。♪

<https://twitter.com/MasakoTsuchiya2/status/1157593233175670784>

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019 年 8 月 4 日 8:27

...それはまた別ネタ...(^^;) ... ☆

↓

中津川 昴 @subaru2012 ũ 8 時間 8 時間前

【日本で言うと雷神様が「雷公」、中国ではその奥さんの「電母】

雷公：雷公、雷神（比較級）、

雷王（最上級）、

雷神の三段活用

<https://prometheusblog.net/2017/02/13/post-3436/> ...

電母：怒らせたなら中国一怖い雷公の奥さん ((;°Д°))

<https://prometheusblog.net/2017/02/13/post-3438/> ...

<https://twitter.com/subaru2012/status/1157681117333299201>

(登録@2019年8月11日)

<https://mypage.syosetu.com/1708528/>

霧樹里守さんのマイページ

作品全1作品

短編 <https://ncode.syosetu.com/n5374fr/> アクション\ [文芸\] 投稿日:2019年08月11日 <https://ncode.syosetu.com/novelview/infotop/ncode/n5374fr/>

<https://mypage.syosetu.com/mypage/novellist/userid/1708528/>

ブックマークは登録されていません

ユーザID 1708528 ユーザーネーム 霧樹 里守フリガナきりぎ・りす血液型 AB型職業「なかなか芽の出ない作者のたまご」サイト <https://mypage.syosetu.com/?jumplink=http%3A%2F%2Fp.booklog.jp%2Fusers%2Fmasatotoki> 自己紹介はじめまして。または、いつもありがとうございます。

旧居【パプー】様の閉店に伴い、移転先を検討中です。

今回『アイリスNEO賞』に応募いたしたくこちらへ。(登録@2019年8月11日)

よろしく願い申し上げます。

(2019年08月12日) 復帰第一戦！...

<https://85358.diarynote.jp/201908121556381012/>

<https://85358.diarynote.jp/201908121556381012/>

2019年8月12日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18 <https://85358.diarynote.jp/201908121556381012/>

<https://85358.diarynote.jp/201908121556381012/>

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190812/85358_201908121556381012_1.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190812/85358_201908121556381012_2.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190812/85358_201908121556381012_3.jpg

<https://www.youtube.com/watch?v=mxG8uofQ8Jw>

Kokia - Yume no Tochuu [Sub Español]

.....さーーーと！

お待ちせ？ しました??

我ながらぐだぐだだった「天中殺」期間が明けましておめでとう？

ようやく！『創作エンジン！』が、暖まってまいりました...☆

とりあえずコレ応募のために

http://www.ichijinsha.co.jp/special/iris/neof_award5/

コレ開設。⇒ <https://mypage.syosetu.com/1708528/>

ついでに行きがけの駄賃？ で、旧作を投入済み。(^^;)

...しかし！

「書く話」は決めてあったんだけど、

(そして旧作投入しちゃったので引っ込みがつかなくなったけれども...)

イマイチ「お題」に要求されてるジャンルから外れる上に、

「長くて、入り組んで、ややこしくて、おもしろくない！」

...という、前途多難な...w(;;)w...★

まあいちおう「完成してなくても審査対象になる」とか、ゆるる〜い企画だし？

復帰第一戦！...てことで、「敗けてもともと」の小手慣らしのつもりで、

気負わずにがんばりまーす☆

(そして副収入？

【小説家になろう！】さんは、

【エブリスタ】で感じたあの「使いづらさ！」の苛苛が...ない！

シンプルで判りやすく親切で使いやすい！

てか期待以上の高機能！(^^)！

そして『アイリスNEO』さんは「既発表作品でも可！」！(^w^)！

...ってことで！

今回は！

「ぶっつけキャラ設定！」から、ここでそのまま公開で！ 書けるので！

...やりやすいぞ〜♪♪ ! (*t▽`)(t▽`*)!

コメント

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年8月12日 16:02

画像は今日のデータの続き。

じつわ気分は非常に悪い！（- - ;）！ のは、ツイッター参照で〜ッ★

(2019年09月05日) そんなこったろうと思ったよ!

<https://85358.diarynote.jp/201909051913309888/>

<https://85358.diarynote.jp/201909051913309888/>

2019年9月5日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18 <https://85358.diarynote.jp/201909051913309888/>

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190905/85358_201909051913309888_1.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190905/85358_201909051913309888_2.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190905/85358_201909051913309888_3.jpg

参照⇒ <https://85358.diarynote.jp/201909050620124319/>

> 個人スケジュール的に超えを大にして叫びたい。

>

>

> 《歌いながら大地を歩く》霧樹里守 @MasakoTsuchiya2 ù 20 時間 20 時間前

>

> そんなこったろうと思ったよ!

>

> (一。一#)

> <https://twitter.com/MasakoTsuchiya2/status/1169243757197189120>

↓

> 【重要】サービス運営会社変更のお知らせ

>

> パブーをご利用のみなさまへ。

>
> 平素より、パブーをご利用いただき、誠にありがとうございます。
>
> 本年4月にパブーを9月で閉店するとお知らせしておりましたが、
>
> このたび、運営会社を変更し継続することになりました。
>
> パブーは2019年9月30日(月)をもちまして、運営会社が株式会社トゥ・ディファクトから「MyISBN」「ムゲンブックス」などの出版サービスを運営するデザインエッグ株式会社に変更となります。
> ../../../../book/385/read

↑
...返せッ!

私の、延々5か月分の... 作業スケジュール変更の... 被害時間数ッ!!!!

!(=へ=#)!

ってことで...

「今後もまたいつ、同じことが起こるかわからない」(信頼ならない)ので...

予定通り、「本抛移転作業」は...続稿!

https://85358.diarynote.jp/home/diary/edit/?time_id=201909051913309888

(関連商品)

コメント

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年9月5日 19:14

※ 画像と本文に（直接の）関係はございません... ☆

（でも移管先の会社の「本社が大阪」なのは、気に入った... ☆）

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年9月5日 19:19

ほう。w（^□^；）w

<https://designegg.co.jp/2019/09/puboo/>

↑

あ”～観た（読んだ）覚えだけはあるな、このサービス...

読み（呼び）にくいわ、わかりずらいわで、

あとずさりで敬遠して、パブーにした（選んだ）んだった...www

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年9月5日 19:32

...あ☆ コレまさに「欲しかったやつ」だ... ☆

↓

<https://designegg.co.jp/2018/07/kampa-2/>（^ ^；）

んで。このsadaさん？

...「副官A君」に、ちょっと、似てるよ...??

w (^w^;) w''''''''

(2019年09月06日)

<https://85358.diarynote.jp/201909060632066641/>

<https://85358.diarynote.jp/201909060632066641/>

2019年9月6日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18 <https://85358.diarynote.jp/201909060632066641/>

<https://www.youtube.com/watch?v=vu9B0g6i8hU>

Zero to Hero Vol. 1 - Most Epic Music of Aspiring Composers

遅いよう！ ございます。(^^;)

06:22です。(^^;) ””””””

いや、起きたのは、午前4時より前でした...www

- > 《歌いながら大地を歩く》霧樹里守 @MasakoTsuchiya2 ù 9時間9時間前
- > 《歌いながら大地を歩く》霧樹里守さんが Testosterone をリツイートしました
- >
- > 誘惑しないで〜〜っ！ (≧▽≦)ノ
- > <https://twitter.com/MasakoTsuchiya2/status/1169585210435833856>
- >
- > ↑
- > 《歌いながら大地を歩く》霧樹里守 @MasakoTsuchiya2 ù 24分24分前
- >
- > そしておもいきり寝落ちして、歯磨きもせずに八時間！
- > 久しぶりに爆睡しているのはワタクシです...ㄟ (´~´;) ㄱ

↑

...だって。なんかね...? (^^;)

前々項参照で「いざ！ 移転作業！」しようと思ったら、「何かに呼ばれ」て…。

(--；)

↓

> 佐田 幸宏 @yuki180 ù 11 時間 11 時間前

> 返信先: @MasakoTsuchiya2 さん

>

> 発表遅くなってすみません。

> これからリニューアルして今まで以上に盛り上げていこうと思っておりますので、コンテンツの面でご協力頂けると嬉しいです。

> 今後ともパブーをよろしくお祈いします。

>

> ↑

> 《歌いながら大地を歩く》霧樹里守 @MasakoTsuchiya2 ù 10 時間 10 時間前

>

> ご返信いたみります。(^^；)

> 来場者数だけなら、かなり貢献できてた？ みたいですが、売り上げ0円だったので恐縮です。(--；)

> 転出作業は継続中ですが、在庫はそのまま置いておきますので、今後ともよろしくお祈い申し上げます…。

>

> いいね 1

> 佐田 幸宏さんがあなたの返信をいいねしました ù 10 時間 10 時間前

↑

…って、なったら、涙目で「転出しないで～ッ★」…って、訴えられているような…???

気がして、なんか作業に戻れずに、そのままツイッタ観てて寝落ちして…

(--；)

…で、はたと目が覚めたら、八時間？ 爆睡してて、午前4時前で… www

そのまま再び「寝床でスマホでツイッタ～☆」……のドツボの蟻地獄で。

スマホの画面でそのまもうっかり「5：55！」を目撃してしまって、慌てて

(それでもキリのいいとこまで目を通してから) りあるに (?) 戻ってきましたよと。

(--；)

06:30のタイマーが鳴ってまーす☆

=====

コメント

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年9月7日 6:06

参照⇒ <https://85358.diarynote.jp/201909061237316330/>

いややはり寝ぼけた頭で「寝床でスマホでツイッター～☆」.....は、やめようよw

事故の元だよ！ wwww

(2019年09月14日)

<https://85358.diarynote.jp/201909141918315789/>

<https://85358.diarynote.jp/201909141918315789/>

2019年9月14日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18 <https://85358.diarynote.jp/201909141918315789/>

<https://www.youtube.com/watch?v=mixvFFcYIPA>

NHK 連続テレビ小説「あまちゃん」OP (ロング ver) 【Cover】

> 佐田 幸宏 @yuki180 ù 9月12日

>

> シード調達フェーズなのに、売上に繋がらない固定費にお金を使ってしまうのは、お金を使うセンスとして疑問符がつくんだろうなあ。

> パーンレートあがるの怖くないのかな？

> シード調達中のスタートアップなのに WeWork に入居？ 黄色信号だね | Coral Capital

>

>

> 《歌いながら大地を歩く》霧樹里守 @MasakoTsuchiya2 ù 9月12日

>

> 意味わかんないけど、パブー大丈夫ですか？

> 赤字でやっぱり無理！ てなる前に、クラウドファンディングとかにして下さいね？

>

>

> 佐田幸宏 @yuki180 ù 9月13日

>

> うちがシード調達フェーズではなく、売上あるので大丈夫です。重要なのはお金より、著者さんからの作品執筆ですね。

>

>

> 《歌いながら大地を歩く》霧樹里守 @MasakoTsuchiya2 ũ 9 月 13 日
>
> それは売上ゼロの居候でも、居なくなるよりはいた方がマシ、て意味ですか??
>
>
>
> 佐田 幸宏 @yuki180
> 返信先: @MasakoTsuchiya2 さん
>
> すみません。ちょっと意味が分かりません...
> 理解力が乏しくてすみません...
>
>
> 《歌いながら大地を歩く》霧樹里守 @MasakoTsuchiya2 ũ 3 時間 3 時間前
> 返信先: @yuki180 さん
>
> あ、すみません。やっぱ場所喰い虫はまじめにすなおに
>
> ちゃっちゃと転出作業を進めますう...★
> <https://twitter.com/yuki180/status/1172760934667841536>

<https://www.youtube.com/watch?v=FNgeHgOpAOg>
高音質【作業用 BGM】超名曲！ 映画音楽集

コメント

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2019年9月14日 21:28

このへんちよろちよろやって時間と根性が尽きたw

↓

(一応完成)【作品リスト】

<https://onedrive.live.com/?id=37D024D445CA67B1%21165&cid=37D024D445CA67B1>

予定未達！ 本日終了！

(2019年09月15日) 0件、 0pt、 0人。

https://85358.diarynote.jp/?page=1&theme_id=18

<https://85358.diarynote.jp/201909151444578910/>

2019年9月15日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18

<https://www.youtube.com/watch?v=td86r6Af7hk>

Best of TWO STEPS FROM HELL - TOP 25 TRACKS | TSFH Vol 2

...これぜんぶ査読しなくちゃいけない担当者も大変だなあ...★

(似たような? ハナシばっかし!?)

↓

【アイリス大賞5】(応募作品)

https://yomou.syosetu.com/search.php?&word=%E3%82%A2%E3%82%A4%E3%83%AA%E3%82%B9%E5%A4%A7%E8%B3%9E%EF%BC%95&order_former=search&order=new¬nizi=1&keyword=1&p=30

> 『ブラインド・ポイント!』 - エスパッション・シリーズ volume.0 -

> 作者: 霧樹 里守 (きりぎ・りす) / 小説情報 / Nコード: N5374FR

>

> 短編

> はるか未来。地球人の末裔たちは《最終戦争》で一旦滅びたあとしつこく復活して再び宇宙に進出した。不安定な他民族合議政体のまま、さらに異星人類《リスタルラーノ》達と第三種接近遭遇。表面的には友好条約を結ぶが、文化的差異のせいで関係はぎくしゃくしていた。そんな中、越境逃亡した凶悪犯を追って隣宇宙《リスタルラーナ》星域に渡った女性警部アリー。その見張りを兼ねた補佐役として派遣された異星人男性刑事のぼけっぷりに足を引っ張られつつ、苦闘の追撃戦。さらに宇宙海賊との戦闘中に、宇宙の難所で...衝突・遭難ッ!? 衝突相手の謎の船の乗組員とさらにバトル。ところが実は味方と判明。七転八倒の末に協力して海賊逮捕。めでたしめでたし。のはずが... なんで? あたし早く地球に帰りたいのよ! プロポーズなんかしないでよーっ!! (絶叫して一旦終わる...)

> (この作品は ../../book/116540/read にも掲載しています)

>

- > ジャンル：アクション [文芸]
- > キーワード：ハードボイルド ミステリー サスペンス 異能力バトル スパイ 冒険 ラブ
コメスペースオペラ 女主人公 未来 超能力 アイリス大賞5
- > 最終更新日：2019/08/11 21:13 読了時間：約 70 分 (34,855 文字)
- >
- > 週別ユニークユーザ：100 未満 レビュー数：0 件パソコンのみで投稿
- > 総合ポイント：0 pt
- > ブックマーク：0 件 評価人数：0 人 評価点：0 pt

↑

...あはははは...★果てしなく時流に外れているらしい...www

(2019年9月19日) (承前)

<https://85358.diarynote.jp/201909190613114876/>

<https://85358.diarynote.jp/201909190613114876/>

2019年9月19日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18

(承前)

(^^;)

そんなわけで今朝まだこんな状態。

<https://ncode.syosetu.com/novelview/infotop/ncode/n4805ft/>

> 『苛怨樹』作者：霧樹 里守(きりぎ・りす)

>

> ...夜ごとの悪夢...

>

> 【アイリス大賞5】応募用作品です。

>

> すいません。今晚(9月19日夜)もう少し書き足す予定です!!

>

> (とりあえず応募作業を先にやりました... 時間切れ!)

>

> ===

>

> 原稿用紙換算400枚目標で書くつもりだったのに、「パプー」閉店⇔継続で右往左往して時間切れ。

>

> 原稿用紙換算40枚のダイジェスト版になってしまいましたが、楽しんで書けましたので個人的OK。

>

> ご笑読いただければ幸いです。

↑

どお～しても！

「ダイジェスト版」用の「仮ラスト」最後の1枚が！

うまく、まとまらないんですよ～っwww

(06:13)

(2019年9月19日) 【アイリス大賞5】応募用作品です。

<https://85358.diarynote.jp/201909192351538500/>

<https://85358.diarynote.jp/201909192351538500/>

2019年9月19日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190919/85358_201909192351538500_1.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190919/85358_201909192351538500_2.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20190919/85358_201909192351538500_3.jpg

本日終了！

<https://ncode.syosetu.com/n4805ft/1/>

> 【アイリス大賞5】応募用作品です。

>

> 書き足しました。(^^;) 23:43!

寝ます w

奥付

(前書き／後書き)

<https://mypage.syosetu.com/1708528/>

『苛怨樹』...夜ごとの悪夢...

この小説の URL : <https://ncode.syosetu.com/n4805ft/1/>

=====

前書き

【アイリス大賞5】応募用作品です。

書き足しました。(^^;) 23:43!

=====

(すいません。今晚(9月19日夜)もう少し書き足す予定です!!)

(とりあえず応募作業を先にやりました... 時間切れ!)

=====

後書き

原稿用紙換算400枚目標で書くつもりだったのに、「バブー」閉店⇔継続で右往左往して時間切れ。

原稿用紙換算40枚のダイジェスト版になってしまいましたが、

楽しんで書けましたので、個人的にはOK。

ご笑読いただければ幸いです。

=====

部分別小説情報

掲載日 2019年09月19日05時10分

最終更新日 2019年09月19日23時43分

奥付

旧：(閉店準備作業のための予備ファイル) 11

《 苛怨樹 》

... 夜ごとの悪夢の物語 ...

リステラス星圏史略

sin 資料ファイル

7 - 9 - X

<https://puboo.jp/book/127521>

著者：霧樹 里守 (きりぎ・りす)

著者プロフィール：<https://puboo.jp/users/masatotoki/profile>

感想はこちらのコメントへ

<https://puboo.jp/book/127521>

電子書籍プラットフォーム：パブー (<https://puboo.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト

《苛怨樹》 … 夜ごとの悪夢 … リステラス星圏史略 sin 資料ファイル 7-9-X

著 霧樹 里守 (きりぎ・りす)

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
